



PAプロセッサー

DriveRack VENU360

取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

■ 安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

警告

- 必ず AC100V (50Hz/60Hz) の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因になり大変危険です。また、付属の電源コードを、他の製品で使用しないでください。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因となります。
- 機器の上に水の入った容器や金属片などを置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると火災や感電の原因となります。
- 確実にアース接続をしてください。また、アース線の脱着は電源コードを外してから行ってください。感電の原因となります。
- 濡れた手で、電源コードや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異状が起きたときは、ただちに電源コードを外し修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。

注意

- 必要な電流容量を安全に供給できるよう、適切な電源回路を用意してください。
- 本機はラックマウント専用です。ラックに設置する際は、全てのねじをしっかりと固定してください。落下によるけがや故障の原因となります。
- 以下のような場所には設置しないでください。火災や故障の原因となります。
 - ・ 直射日光のあたる場所
 - ・ 極度の低温または高温の場所
 - ・ 湿気の多い場所
 - ・ ほこりの多い場所
 - ・ 振動の多い場所
 - ・ 塩害や腐食性ガスが発生する場所
- 通気性の良い場所に設置し、機器の通気口は絶対に塞がないでください。熱がこもって、火災や故障の原因となります。
- 機器の移動は、電源コードや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがや故障の原因となります。
- 他の機器との接続は、機器の電源を全て切ってから行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、各機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害や機器の破損の原因となります。
- 長時間使用しないとき、または落雷の恐れがあるときは、電源コードを外してください。火災や感電、故障の原因となります。

目次

安全上のご注意.....	P.02
目次.....	P.03
主な特徴.....	P.04
梱包内容の確認.....	P.04
各部の名称と機能	
前面パネル.....	P.05
背面パネル.....	P.08
設置と接続、電源の ON/OFF	
設置.....	P.09
外部機器との接続.....	P.09
電源の ON/OFF.....	P.09
操作の前提	
動作メニューの構造.....	P.10
動作モード.....	P.11
ホーム画面.....	P.12
ユーティリティー機能 (Utility Menu).....	P.13
文字、数値の変更.....	P.16
セットアップ	
ウィザード機能について.....	P.17
ウィザード機能の設定 (Wizard Option).....	P.18
ウィザードの実行手順	
システム設定ウィザード (Run System Setup Wizard).....	P.18
オートEQ / レベルアシスト・ウィザード (Run AutoEQ/Level Assist Wizard).....	P.23
AFS ウィザード (Run AFS Wizard).....	P.26
マスタークロックソースとサンプリングレート変換.....	P.29
構成モードの使用	
ルーティング / ミキシング設定.....	P.32
音響調整機能のインサート.....	P.33
クロスオーバーの変更.....	P.34
プリセット	
プリセットについて.....	P.35
プリセットの呼び出し.....	P.35
プリセットの保存.....	P.35
プリセットのコピー.....	P.36
プリセットの削除.....	P.36
プリセットのバックアップ.....	P.37
プリセットリスト.....	P.38
専用アプリケーションによるコントロール	
専用アプリケーション「VENU360 Control App」について.....	P.39
「VENU360 Control App」のダウンロードとインストール.....	P.39
タブレット端末や PC との接続.....	P.41
専用アプリケーションの各部の名称と機能.....	P.43
Virtual VENU360.....	P.45
アプリケーションのアップデート.....	P.46
前面パネルのロック.....	P.47
工場出荷時の状態へのリセット.....	P.48
ファームウェアの更新.....	P.49
DSP ブロックダイアグラム.....	P.51
仕様.....	P.52

■ 主な特長

- 3入力6出力構成、AES/EBU デジタル入力も可能。内部ルーティング / ミキシング機能を搭載し、規模の大小を問わず様々なシステムに柔軟に対応。
- 煩雑なセットアップを短時間で完了できるウィザード機能搭載。ディスプレイの表示に従い設定を進めていくことで最適なセットアップを完了。
- スピーカーやパワーアンプのモデル名および構成等を選択していただければ、パラメーターを自動設定するチューニングリストを内蔵。
- 音響出力系に必要なほとんどの機能を搭載※。
 - ・ハウリング・サプレッサー…最新の AFS アルゴリズムを採用し、音質への影響を最小限に抑えながら、素早く正確にハウリングを検知し、除去。
 - ・コンプレッサー…定評ある dbx の音質を継承。ニー特性を滑らかにする OverEasy 機能 (10 段階可変) も搭載。
 - ・リミッター…スピーカーを確実に保護しながら音質への影響を最小限に抑制する、独自の PeakStopPlus 機能を搭載。
 - ・自動ゲイン制御…信号レベルを一定に保持。
 - ・イコライザー…各入力チャンネルでは 31 バンド・グラフィックイコライザーと 12 バンド・パラメトリックイコライザーを選択。各出力チャンネルには 8 バンド・パラメトリックイコライザーを用意。
 - ・クロスオーバー…最大 6-Way。バターワース (6 ~ 48dB/oct)、リンクウィッツ・ライリー (12 ~ 48dB/oct) 特性を選択可能。
 - ・ディレイ…合計で最大 3,000mS のディレイを利用可能。
 - ・サブハーモニック・シンセサイザー…低域の信号を合成し、音のパンチと力強さを増強。
 - ・31 バンド・リアルタイムアナライザー…ピンクノイズ発生機能と測定専用入力端子を装備。
 - ・ノイズゲート

※同時に使用できる機能の数には制限があります。

- 会場に適した音質補正を自動的に行うオート EQ 機能を搭載。オプションの RTA マイクロホンを使用して音場を分析し、最適なスピーカーの出力レベルと周波数特性を瞬時に判断。オート EQ は出力処理段で挿入されるので、用途別に最適な補正が可能。
- 24bit の AD/DA コンバーターは独自の “Type IV” 方式を採用し、ダイナミックレンジを拡大。
- タブレット端末や PC を使用してワイヤレスで制御するためのアプリケーション「VENU360 Control App」を用意。会場を歩き回り、実際の音を聴きながらサウンドを調整可能※。
- Control App からレベルメーターやクリップ LED、スレッショルド LED などのモニタリングが可能。

※「VENU360 Control App」をワイヤレスで使用するためには、Wi-Fi 対応の携帯端末または PC、および無線ルーターが必要です。

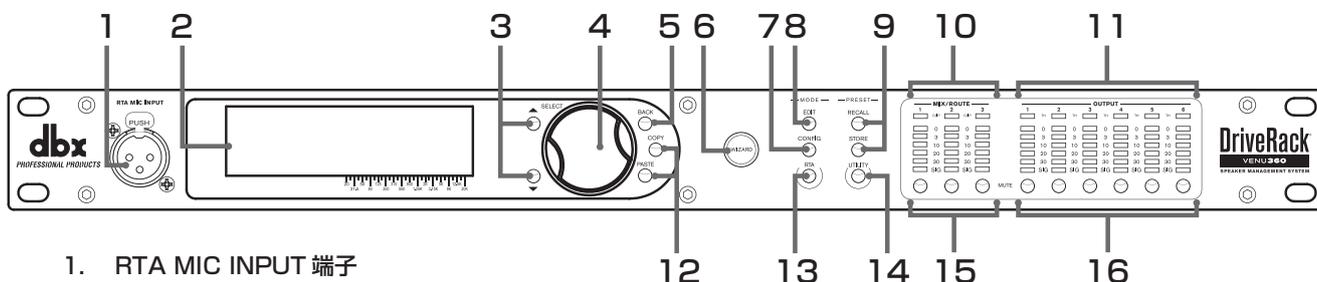
■ 梱包内容の確認

パッケージに次の物が入っていることを確認してください。

- ・ 本体
- ・ 電源コード
- ・ ラックマウントねじ (ねじ× 4、ワッシャー× 4)
- ・ 和文取扱説明書
- ・ 保証書

■ 各部の名称と機能

▶ 前面パネル



1. RTA MIC INPUT 端子

バランス仕様 XLR 3 ピンの測定用マイクロホン入力端子です。+48V のファンタム電源が常時供給されています。音響調整を行う場合に、別売の測定用マイクロホンを接続します。

備考

※測定用マイクロホンに dbx の「RTA-M」を使用する場合、オート EQ 時の周波数特性を補正し、正確な結果が得られるように設定できます。この設定の詳細は、18 ページの「ウィザード機能の設定」を参照してください。

2. ディスプレイ

操作に必要な情報を表示する液晶ディスプレイです。

3. UP/DOWN (▲/▼) ボタン

液晶ディスプレイの操作に使用するボタンです。ホーム画面を切り替える際にも使用します。

4. ホイールつまみ

ホイールつまみを回すと、項目の選択やパラメーターの調整ができます。押すと、選択した項目や調整したパラメーターの確定、ホーム画面の切り替えができます。

5. BACK ボタン

ディスプレイの表示を 1 つ前の状態に戻すボタンです。何度か押すとホーム画面に戻ります。

6. WIZARD ボタン

ウィザード機能呼び出すボタンです。ウィザード機能を使用すれば、画面の指示に従い設定を進めていくことで、お手持ちのスピーカーやパワーアンプ、会場、スピーカーの位置等に合わせた最適なセットアップを完了できます。ウィザード機能の詳細については、17 ページの「ウィザード機能について」を参照してください。

7. CONFIG ボタン

「構成モード」を呼び出すボタンです。構成モードは、ルーティングの設定やプリセット内容を手動で変更したり、ウィザード機能だけでは難しい高度な構成を作成できる動作モードです。構成モードの詳細については、32 ページの「構成モードの使用」を参照してください。

8. EDIT ボタン

「編集モード」を呼び出すボタンです。音響調整機能（コンプレッサーやクロスオーバー）の個々のパラメーターを変更する際の動作モードです。

9. PRESET RECALL/STORE ボタン

RECALL：本機に保存されているプリセットを呼び出すボタンです。

STORE：プリセットを新規作成／編集した場合に、保存するボタンです。

プリセットの呼び出し、保存の詳細については、35 ページの「プリセットの管理」を参照してください。

10. 入力レベルメーター / CLIP LED

入力信号レベルを表示する 6 セグメントのレベルメーターです。入力処理チェーンのルーティング / ミキシング処理の直後の信号レベルを監視します。レベルメーターの監視ポイントについては 51 ページの「ブロックダイアグラム」を参照してください。

信号レベルが下の表の値以上になると、該当する LED が点灯します。

入力レベルメーター LED	dBFS	Analog Input Clip level 設定値			
		+14dBu	+20dBu	+24dBu	+28dBu
0	-0.1	+14.1dBu	+20.0dBu	+24.2 dBu	+28.2 dBu
3	-3	+12.2dBu	+18.2dBu	+22.2 dBu	+26.3 dBu
10	-10	+5.2dBu	+11.2dBu	+15.3 dBu	+19.3 dBu
15	-20	-4.8dBu	+1.2dBu	+5.3 dBu	+9.3 dBu
20	-30	-14.8dBu	-8.8dBu	-4.7 dBu	-0.7 dBu
SIG	-48	-32.8dBu	-26.8dBu	-22.7 dBu	-18.7 dBu

入力レベルメーターの上部に過大信号によって点灯する、クリップ LED を装備しています。ピーク・ホールド機能を備えており、信号がクリップレベルより下がった後も、しばらく点灯し続けます。クリップ LED が点灯した場合は、入力信号レベルを下げる、または、ユーティリティ機能で、入力信号のクリップレベルを変更してください。詳細は 13 ページの「ユーティリティ機能」を参照してください。

11. 出力レベルメーター / スレッショルド LED

信号の出力レベルを表示する 6 セグメントのレベルメーターです。出力処理の後段、ミュートボタンと D/A コンバーターの前の信号レベルを監視します。レベルメーターの監視ポイントについては 51 ページの「ブロックダイアグラム」を参照してください。

出力信号レベルが下の表の値以上になると、該当する LED が点灯します。

出力レベルメーター LED	dBFS	Analog Output Clip level 設定値						
		+4dBu	+8dBu	+12dBu	+14dBu	+17dBV	+20dBV	+22dBu
0	-0.1	+4.5 dBu	+8.6 dBu	+12.4 dBu	+14.3 dBu	+17.2 dBu	+19.8 dBu	+22.1 dBu
3	-3	+3.1 dBu	+7.2 dBu	+11.0 dBu	+12.9 dBu	+15.8 dBu	+18.4 dBu	+20.8 dBu
10	-10	-3.8 dBu	+0.3 dBu	+4.0 dBu	+5.9 dBu	+8.9 dBu	+11.4 dBu	+13.8 dBu
15	-20	-13.8 dBu	-9.8 dBu	-6.0 dBu	-4.1 dBu	-1.1 dBu	+1.4 dBu	+3.8 dBu
20	-30	-23.8 dBu	-19.8 dBu	-16.0 dBu	-14.1 dBu	-11.1 dBu	-8.6 dBu	-6.2 dBu
SIG	-48	-41.8 dBu	-37.8 dBu	-34.0 dBu	-32.1 dBu	-29.1 dBu	-26.6 dBu	-24.2 dBu

出力レベルメーターの上部に、出力リミッターの動作状態を表示するスレッシュホールド LED を装備しています。点灯する色による動作の違いは以下の通りです。

緑：信号レベルはスレッシュホールド未満です。リミッターは動作していません。

黄：信号レベルがスレッシュホールドに近づいており、リミッターが動作し始めています。この色は、リミッターの二一特性を設定する OverEasy 機能が ON の場合にのみ点灯します。

赤：信号レベルがスレッシュホールドを超え、リミッターが動作しています。

備考

» OverEasy 機能は、リミッター ([LIM]) とコンプレッサー ([CMP]) に搭載しています。二一特性を 10 段階に変更できます。機能を OFF に設定した場合は、ハード二一特性のリミッターとして動作し、信号レベルがスレッシュホールドに達すると即時にリミッティングを行います。1 ~ 10 に設定するに従って二一特性がソフトになり、信号レベルがスレッシュホールドに達する前からリミッティングを開始するため、より滑らかで自然な音質が得られます。OverEasy 機能の設定は、EDIT ボタンで編集モードを呼び出し、パラメーターの変更を行ってください。

12. COPY/PASTE ボタン

設定内容をコピーし、貼り付けるボタンです。

13. RTA ボタン

RTA (リアルタイムアナライザー) 機能呼び出すボタンです。RTA 機能では、分析する信号の選択や分析結果のグラフ表示の調整や、シグナルジェネレーターの ON/OFF やルーティングなどが行えます。

14. UTILITY ボタン

ユーティリティ機能呼び出すボタンです。ユーティリティ機能では、ファームウェアやネットワーク設定に関する情報の表示、環境設定が行えます。ユーティリティ機能の詳細については、13 ページの「ユーティリティ機能」を参照してください。

15. MUTE ボタン

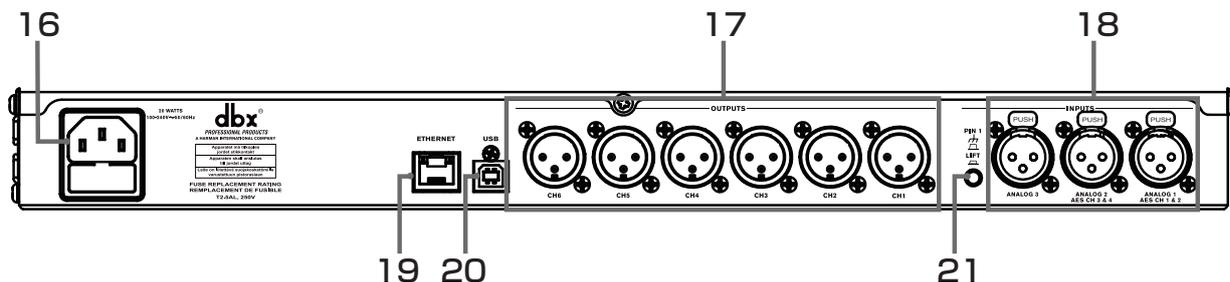
出力をミュートするボタンです。出力レベルメーターの直前でミュートされます。

備考

» MUTE ボタンの状態は、プリセットには保存されませんが、電源 OFF 後も保持されます。

» いずれかの MUTE ボタンを押しながら電源を OFF にすると、次に ON にするとき全ての出力をミュートした状態で起動します。また、電源を ON にした時に、常にすべての出力をミュートした状態で起動することもできます。この機能の詳細については 13 ページの「ユーティリティ機能」を参照してください。

▶ 背面パネル



16. 電源端子

付属の電源コードを接続します。

備考

» 本機は電源スイッチを装備していません。電源コードで本機とコンセントを接続すると電源が ON になります。

17. OUTPUTS 端子

バランス仕様 XLR 3 ピンの出力端子です。パワーアンプやパワードスピーカーに接続してください。

18. INPUTS 端子

バランス仕様 XLR 3 ピンの入力端子です。ミキサー等を接続します。右から XLR 1、XLR 2、XLR 3 です。XLR 1 と 2 はアナログ入力とデジタル入力で共用です。

19. ETHERNET 端子

RJ-45 のイーサネット端子です。専用アプリケーション「VENU360 Control App」（無償）を使用して、本機をタブレット端末や PC から操作したり、ファームウェアを更新したりする場合に使用します。専用アプリケーションの詳細については、39 ページの「専用アプリケーションによるコントロール」を参照してください。ファームウェアの更新の詳細については、49 ページの「ファームウェアの更新」を参照してください。

20. USB 端子

B タイプの USB 端子です。ファームウェアを更新する場合に使用します。詳細については、49 ページの「ファームウェアの更新」を参照してください。

21. グラウンドリフトスイッチ

INPUTS 端子の 1 番ピンをグラウンドから切断するスイッチです。グラウンドループが原因でハムノイズが発生した場合に、このスイッチを押すと影響を低減できる可能性があります。

注意！

» グラウンドリフトスイッチを切り替える際は必ず、パワーアンプの電源を切るか、本機の出力をミュートしてください。

■ 設置と接続、電源の ON/OFF

▶ 設置

本機はラックマウント専用です。付属のねじを使用して、標準 19 インチラックに取り付けてください。

- ラックに取り付ける際は、本機の周囲に十分なスペースを空けて通気を確保してください。
- 発熱の多い機器の真上や真下に設置しないでください。
- ラック内部の温度が 35℃を超えないように注意してください。
- シャーシは RF/EMI シールドを備えていますが、電波障害や電磁障害が極端に強い場所への設置は避けてください。

▶ 外部機器との接続

1. 本機と全ての接続機器の電源が OFF になっていることを確認してください。
2. ミキサー等の出力端子を、本機の入力端子に接続します。
3. 本機の出端子を、パワーアンプまたはパワードスピーカーの入力端子に接続します。

▶ 電源の ON/OFF

電源の ON

1. 本機に接続した全ての機器の電源が OFF の状態で、出力音量も最小になっていることを確認してください。
2. 入力機器の電源を入れます。
3. 本機の背面パネルにある電源端子に電源コードを接続し、本機の電源を ON にします。電源コードは、音声ラインからなるべく離れた電源コンセントに差し込みます。
4. 最後に、パワーアンプまたはパワードスピーカーの電源を入れます。

備考

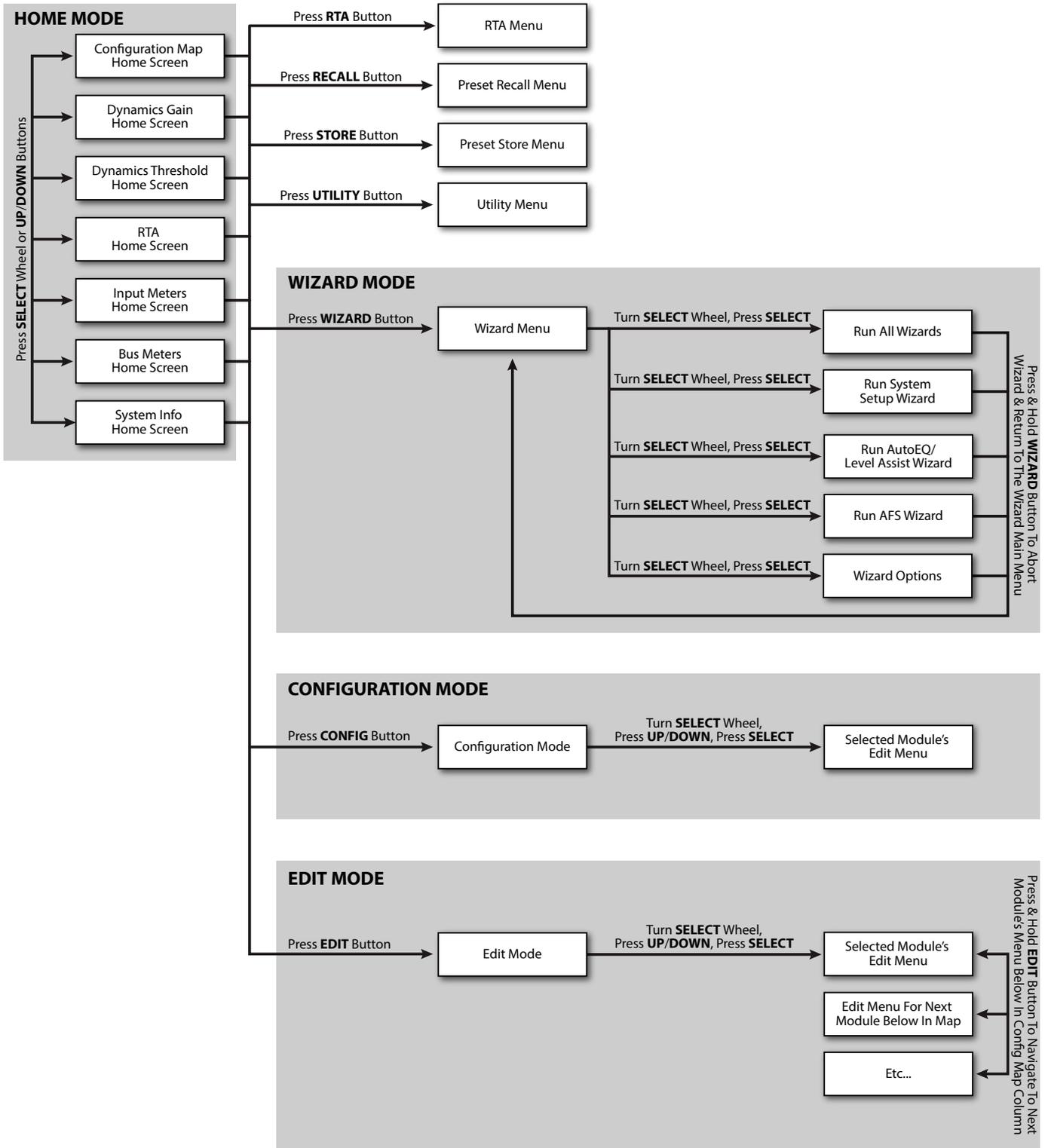
- » 本機は電源スイッチを装備していません。電源コードで本機とコンセントを接続すると電源が ON になります。
- » 本機は起動時およびセットアップ中は出力をミュートします。セットアップが完了すると、ミュートは自動的に解除されます。

電源の OFF

1. パワーアンプまたはパワードスピーカーの電源を切ります。
2. 放電が完了するまで 10 秒程度待ってください。
3. 本機の電源を切ります（電源コードのプラグをコンセントから外します）。
4. 入力機器の電源を切ります。

■ 操作の前提

▶ 動作メニューの構造

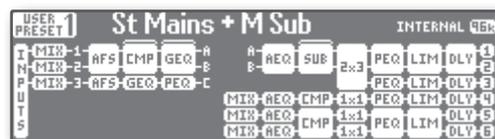


▶ 動作モード

本機には「ホームモード」、「ウィザードモード」「構成モード」「編集モード」の4つの動作モードがあります。動作モードの種類と切り替え方法について説明します。

ホームモード (HOME MODE)

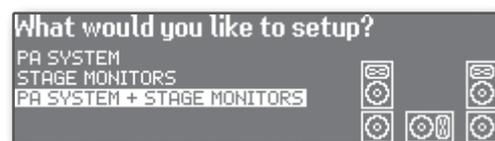
デフォルトの動作モードです。電源を入れるとホームモードで起動し、ディスプレイにホーム画面が表示されます。ホームモードでは各種ホーム画面を選択できます。各ホーム画面の詳細については、12ページの「ホーム画面」を参照してください。



BACK ボタンで、いつでもホームモードに戻ることができます。BACK ボタンを押す回数は、現在のメニュー階層の深さによって決まります。

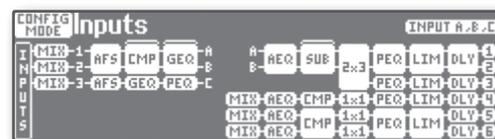
ウィザードモード (WIZARD MODE)

ディスプレイに表示される指示に従ってシステム設定・最適化プロセスを実行する際の動作モードです。WIZARD ボタンを押すと、ウィザードモードに切り替わります。ウィザードの使用方法については、17ページの「セットアップ」を参照してください。



構成モード (CONFIGURATION MODE)

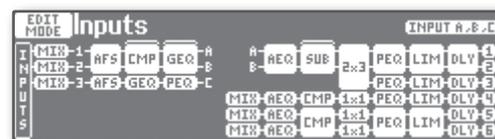
プリセットの内容を変更したり、ウィザード機能だけでは難しい高度な構成を作成したりする際の動作モードです。CONFIG ボタンを押すと、構成モードに切り替わります。



構成モードでは、画面の左上隅に [CONFIG MODE] アイコンが表示されます。ホイールつまみと UP/DOWN ボタンを使用して、画面上の構成マップを操作し、音響調整機能などの機能を選択します。選択した機能は画面上部のタイトルに表示されます。ディスプレイの右上隅に表示されるアイコンは、選択した機能の影響を受ける入力/出力チャンネルを示します。機能を選択した後、ホイールつまみを押し、設定項目が表示されます。構成モードの詳細については、32ページの「構成モードの使用」を参照してください。

編集モード (EDIT MODE)

音響調整機能のパラメーターを編集する際の動作モードです。EDIT ボタンを押すと、編集モードに切り替わります。



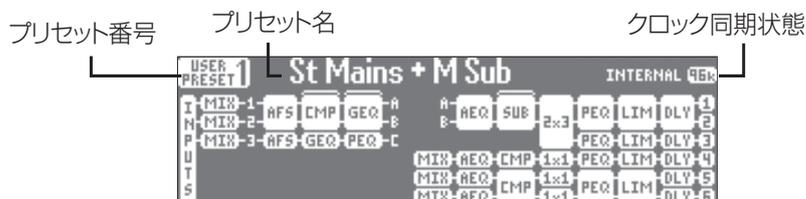
編集モードでは、画面の左上隅に [EDIT MODE] アイコンが表示されます。ホイールつまみと UP/DOWN ボタンを使用して、画面上の構成マップを操作し、音響調整機能を選択します。選択した音響調整機能は画面上部のタイトルに表示されます。ディスプレイの右上隅に表示されるアイコンは、選択した機能の影響を受ける入力/出力チャンネルを示します。機能を選択した後、ホイールつまみを押し、そのメニューに移動し、パラメーターを編集できます。

▶ ホーム画面

ホーム画面は、ホームモード動作時にディスプレイに表示される画面です。電源起動時もホーム画面が表示されます。ホーム画面に表示する情報は7種類から選択でき、全ての画面の上部に、現在呼び出しているプリセット番号、プリセット名、クロック同期状態が表示されます。

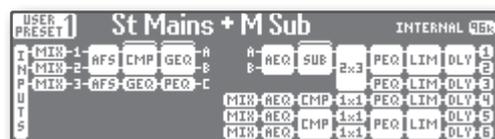
プリセット名が長く、画面に表示しきれない場合、ホイールつまみを回すとプリセット名がスクロールします。

ホーム画面を切り替えるには、ホイールつまみを押し、ポップアップメニューから画面を選択するか、UP/DOWN ボタンを押します。各ホーム画面の詳細は、以下の通りです。



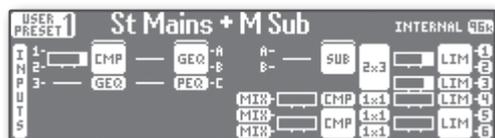
構成マップホーム画面 (Configuration Map)

デフォルトのホーム画面です。現在呼び出しているプリセットの構成および信号の流れを表示します。画面左端は入力処理チェーン、右端は出力処理チェーンを表示しています。アイコンは音響調整機能を表します。



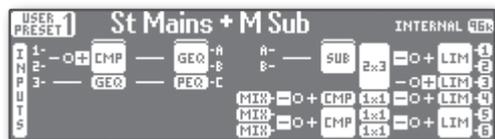
ダイナミクスゲインホーム画面 (Dynamics Gain)

ダイナミクス系の音響調整機能（コンプレッサー、リミッター、AGC、ノイズゲートなど）による全てのゲイン調整量を表示するホーム画面です。機能のアイコンの横にレベルメーターが表示されます。ダイナミクス系以外の音響調整機能が設定されたスロットには、線が表示されます。



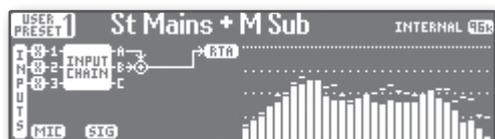
ダイナミクススレッシュホールドホーム画面 (Dynamics Threshold)

ダイナミクス系の音響調整機能のスレッシュホールドインジケータを表示するホーム画面です。機能のアイコンの横にスレッシュホールドに対する信号レベルの目安が表示されます。[-]: 信号レベルはスレッシュホールド未満、[○]: 信号レベルがスレッシュホールドに近づいている、[+]: 信号レベルがスレッシュホールドを超えている。ダイナミクス系以外の音響調整機能が設定されたスロットには、線が表示されます。



RTA ホーム画面 (RTA)

リアルタイムアナライザーの設定状況と測定結果を表示するホーム画面です。画面左側には分析を行う信号経路を表示します。



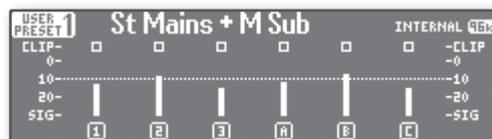
入力メーターホーム画面 (Input Meters)

VENU360 の全入力の信号レベルおよびクリップインジケータを表示するホーム画面です。



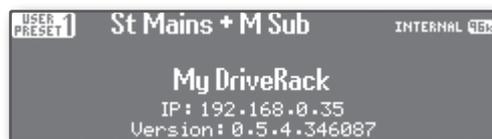
バスメーターホーム画面 (Bus Meters)

入力信号経路の全てのバスポイント (1/2/3/A/B/C) のメーターを表示するホーム画面です。1/2/3 バスポイントはプリ DSP、A/B/C バスポイントはポスト DSP です。バスポイントについては、32 ページの「ルーティング/ミキシング設定」および 51 ページの「DSP ブロックダイアグラム」を参照してください。



システム情報ホーム画面 (System Info)

VENU360 のデバイス名、現在の IP アドレス、ファームウェアのバージョンを表示するホーム画面です。



備考

- » 電源起動時は、電源を OFF にする前に選択されていたホーム画面が表示されます。
- » ユーティリティ機能の HOME SCREEN TIME OUT の設定により、最後の操作から一定の時間が経過後にホーム画面に戻るまでの時間を設定できます。HOME SCREEN TIME OUT 機能の詳細については、13 ページの「ユーティリティ機能」を参照してください。

▶ ユーティリティ機能 (Utility Menu)

ユーティリティ機能では、ファームウェアやネットワーク設定に関する情報の表示、環境設定が行えます。ユーティリティ機能を呼び出すには、UTILITY ボタンを押して編集モードに切り替えます。各項目の詳細は以下の通りです。



System Info

ファームウェアのバージョン、前面パネルのバージョン、IP アドレス、MAC アドレスを表示します。このシステム情報の一部は、システム情報ホーム画面でも確認できます。システム情報ホーム画面の詳細については、12 ページの「ホーム画面」を参照してください。

Analog Input/Output Clip Levels [Input : +14 / +20 / +24 / +28dBu, Output : +4 / +8 / +12 / +14 / +17 / +20 / +22dBu]

本機と接続機器（ミキサー、パワーアンプ、パワードスピーカー）のアナログゲイン構造が最適になるようクリップレベルを設定します。適切に設定することで、アナログ信号の SN 比を改善し、機器の性能を最大限に発揮させることが可能になります。例えば、ミキサーの最大出力レベルが 28dBu の場合、それに合わせて「+28dBu」に設定します。逆に、パワーアンプのアッテネーターが最大限に達している場合は、+4dBu 程度に設定してアナログ出力レベルを減衰させることで、パワーアンプのクリップを防止できます。

注意！

- » Analog Output Clip Levels は、システム設定ウィザードでパワーアンプのモデル名を選択した場合は自動設定されます。パワーアンプのクリップやスピーカーの損傷を防止するために、設定を手動で変更する際は注意してください。
- » Analog Output Clip Levels の設定を変更する場合は、ミキサーの出力レベルを十分に下げてから行ってください。

XLR Input Format [XLR 1 / XLR 2 Format : Analog / AES 1&2 / AES 3&4, Sample Rate Conversion : OFF / ON]

XLR 1 および XLR 2 INPUTS 端子の入力フォーマットを設定します。端子ごとにアナログ入力またはデジタル入力を設定できます。デジタル入力には 110 Ω バランスケーブルを使用してください。

デジタル入力を選択した場合、各 XLR 端子に対しサンプリングレート変換 (SRC) の ON / OFF を個別に設定できます。これにより、48kHz または 96kHz 以外のサンプリングレートで動作する複数のクロックまたは外部機器との接続に対応することが可能です。詳細は、29 ページの「マスタークロックソースとサンプリングレート変換」を参照してください。

Clock Source [Internal 48kHz / Internal 96kHz / AES 1&2 / AES 3&4]

本機を同期させるクロックソースおよび内部クロックのサンプリングレートを設定します。クロック設定の詳細については、29 ページの「マスタークロックソースとサンプリングレート変換」を参照してください。

LCD Contrast [0 ~ 100%]

ディスプレイのコントラストを設定します。照明条件に応じて画面が見やすいように調整してください。

LCD Backlight [Dim / Medium / Bright]

ディスプレイのバックライトの輝度を設定します。

Home Screen Time Out [10s / 30s / 1min / 2min / 3min / 4min / 5min / 10min / Disabled]

最後の操作から一定時間経過後にホーム画面に戻る機能です。機能を ON にする場合は、ホーム画面に戻るまでの時間を設定します。機能を OFF にする場合は [Disabled] に設定します。

備考

- » Home Screen Time Out は、モード／メニューによっては機能しません。例えば、ウィザードの実行中などの、ユーザーによる変更作業中は内容が誤って失われることを防止するためにタイムアウトしません。

Preset Powerup [CURRENT / STORED]

本機の電源を ON にした時の、プリセットの状態を設定します。[CURRENT] に設定した場合は、最後に電源を OFF にした時点でのプリセット設定で起動します。[STORED] に設定した場合は、メモリーに保存されたプリセットを呼び出して起動します。

注意!

» [CURRENT] に設定した場合、パラメーターの変更が自動保存されるまで 5 秒程度かかります。パラメーターを変更した直後に電源を OFF にすると、自動保存されず、変更内容が失われます。

Mutes Powerup [CURRENT / MUTE ALL]

本機の電源を ON にした時の、MUTE ボタンの ON / OFF の状態を設定します。[CURRENT] に設定した場合は、最後に電源を OFF にした時点での MUTE ボタンの ON / OFF の状態で起動します。[MUTE ALL] に設定した場合は、常に全ての MUTE ボタンが ON になった状態で起動します。

Network

PC と通信するために、DHCP、固定 IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定します。ネットワーク設定の詳細は、41 ページの「タブレット端末や PC との接続」を参照してください。

App Security

「VENU360 Control App」を使用したタブレット端末または PC からの操作をロックするためのパスワードを設定します。デフォルトのパスワードは「administrator」です。デフォルトのパスワード以外に変更すると、セキュリティー機能が有効になります。機能が有効の時は、タブレット端末または PC から「VENU360 Control App」を使用して本機を操作する際、パスワードの入力が必要です。パスワードを編集する際は、画面に表示される指示に従ってください。セキュリティー機能を無効に設定する場合は、パスワードを「administrator」に戻してください。

Device Name

本機のデバイス名を設定します。ここで設定したデバイス名は、「VENU360 Control App」でネットワークを表示した時に表示されます。

Sales Banner [OFF / ON]

セールスバナー表示の ON / OFF を設定します。セールスバナーは店頭ディスプレイ用のデモ画面です。

Map Navigation [Horizontal / Vertical]

ホイールつまみを回した時の構成マップ上の移動方向を設定します。[Horizontal] では横、[Vertical] では縦に移動します。

Preset Recall List

前面パネルから呼び出すことができるプリセットの範囲を設定します。デフォルトでは全てのプリセットを呼び出せるように設定されています。ホイールつまみを左に回すと、呼び出すことができるプリセットリストの範囲が狭くなります。ホイールつまみを右に回すと、呼び出すことができるプリセットリストの範囲が広がります。

例えば、先頭の5つのプリセットのみを使用する場合、リストのサイズをその5つに制限しておけば、その他のプリセットを全て隠すことができます。Preset Recall Listのサイズは1～25の間で選択可能です。この機能を使用する場合、呼び出したいプリセットは、番号が最下位のプリセットメモリー位置に保存されている必要があります。必要な場合、25より上のメモリー位置にあるプリセットを下のメモリー位置にコピーすることができます。プリセットのコピー方法については、36ページの「プリセットのコピー」を参照してください。

▶ 文字、数値の変更

プリセット名、デバイス名、セキュリティー機能のパスワード設定や、IPアドレスの設定のための、画面上の文字や数値を変更する方法について説明します。ホイールつまみを押すと、文字入力モードが切り替わります。画面下部にモードごとに操作方法が表示されます。

文字入力モードの切り替え

操作	モード 1	モード 2
ROTATE SELECT (ホイールつまみを回す)	MOVE CURSOR (カーソルの移動)	MODIFY CHARACTER (文字の編集) または MODIFY ADDRESS (アドレスの編集)
PRESS SELECT (ホイールつまみを押す)	TOGGLE MODE (文字入力モード 1 と 2 の切り替え)	
PRESS UP/DOWN* (UP/DOWN ボタンを押す)	INS/DEL CHARS (UP: 文字の挿入、DOWN: 文字の削除)	CHANGE CHAR TYPE (文字の種類を変更: 大文字⇄小文字⇄記号)
PRESS UTILITY (UTILITY ボタンを押す)	SAVE CHANGES (変更を保存)	
PRESS BACK (BACK ボタンを押す)	ABORT CHANGES (変更をキャンセル)	

* UP/DOWN ボタンは文字変更時のみ有効で、IP アドレスの変更時は表示されません。

■ セットアップ

▶ ウィザード機能について

ウィザード機能を使えば、ディスプレイの表示に従い設定を進めていくことで、お手持ちのスピーカーやパワーアンプ、会場、スピーカーの位置等に合わせた最適なセットアップを完了できます。セットアップは構成モードで手動でも行えますが、ウィザード機能を使用する方法が最も簡単です。

ウィザード機能は、前面パネルの WIZARD ボタンを押して呼び出します。ウィザード機能には、以下のウィザードが用意されており、全てを通して、または一部のみを実行するかを選択できます。事前にシステム設定ウィザードを実行して結果を本体に保存し、設置会場でオート EQ / レベルアシスト・ウィザードや AFS ウィザードを実行すれば、効率的なセットアップが可能です。



備考

» ウィザードの実行中に WIZARD ボタンを 2 秒以上長押しすると、現在のウィザードを終了し、Wizard Menu 画面に戻ります。



- **オールウィザード : Run All Wizards**

システム設定ウィザード、オート EQ / レベルアシスト・ウィザード、AFS ウィザードを連続して実行します。

- **システム設定ウィザード : Run System Setup Wizard**

使用するスピーカーやパワーアンプのモデル名および構成等を選択していきただけで、クロスオーバー、パラメトリック EQ、ドライバアライメントディレイ、極性、アナログ出力クリップレベル、リミッター設定を最適な値に自動設定します。また、XLR 端子の入力フォーマット（アナログ入力またはデジタル入力）とマスタークロックソースの設定も実行します。

- **オート EQ / レベルアシスト・ウィザード : Run AutoEQ/Level Assist Wizard**

オプションの測定用マイクロホンを使用して音響調整を行います。オート EQ では 31 バンド・リアルタイムアナライザーで音場を測定し、パラメトリック EQ で周波数特性を自動補正します。またレベルアシストでは、音圧レベルを測定し、スピーカーのレベルおよび LR バランスを分析。最適なパワーアンプのゲイン設定をディスプレイに表示します。

- **AFS ウィザード : Run AFS Wizard**

ハウリングを意図的に発生させることで、会場のハウリングポイントに固定のノッチフィルターを自動で挿入します。

▶ ウィザード機能の設定 (Wizard Options)

ウィザード機能全体に関わる設定は、WIZARD ボタンを押した Wizard Menu にある Wizard Options で行います。Wizard Options には、以下の項目があります。

Level Assist Auto Trim [ON / OFF]

レベルアシストの自動レベル調整の ON / OFF を設定します。[ON] に設定した場合は、音響システムのレベルの不整合が 3 dB 以下であれば自動的に調整します。[OFF] に設定した場合は、自動調整は行われません。

備考

- » LEVEL ASSIST AUTO TRIM によって自動でレベル調整された値は、確認および変更できません。設定した値を無効にするには、LEVEL ASSIST AUTO TRIM を [OFF] に設定した後、再度レベルアシスト・ウィザードを実行してください。

Mic Response [dbx RTA-M / FLAT]

測定用マイクロホンに dbx の「RTA-M」を使用する場合、オート EQ 実行時の周波数特性を補正し、正確な結果が得られるようにします。dbx RTA-M 以外の測定用マイクロホンを使用する場合は、[FLAT] に設定してください。

Setup Auto Preset Naming [ON / OFF]

プリセット名自動生成機能の ON / OFF を設定します。ON に設定した場合は、システム設定ウィザードで選択したスピーカーのモデル名や構成に基づき、プリセット名が自動で生成されます。プリセット名を変更する場合は、保存時に編集してください。

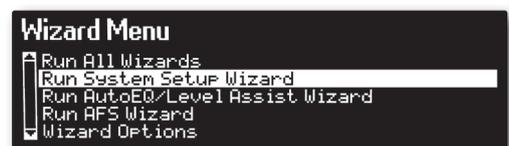
システム設定ウィザード (Run System Setup Wizard)

備考

- » 全てのウィザードを連続して実行したい場合は、[Run All Wizard] を行ってください。
- » ウィザードの実行前に Wizard Options の設定状況を確認することをお勧めします。設定の詳細については、18 ページの「ウィザード機能の設定」を参照してください。
- » システム設定ウィザードで選択できるスピーカーやパワーアンプのリストは、チューニングリストと呼ばれ、アプリケーションのアップデートの際に最新のリストに更新できます。更新方法については、46 ページの「アプリケーションのアップデート」を参照してください。



1. WIZARD ボタンを押してください。ウィザードモードに切り替わります。
2. [Run System Setup Wizard] を選択し、ホイールつまみを押してください。



3. [Completing Setup Wizard will overwrite your current configuration]

「セットアップウィザードを完了すると、現在の設定を上書きします」

上書きする場合は、ホイールつまみを押して次の手順に進んでくだ

さい。上書きしない場合は、WIZARD ボタンを長押ししてウィザードを中止し、現在の設定をプリセットとして保存してください。保存方法は 35 ページの「プリセットの保存」を参照してください。

Completing Setup Wizard will overwrite
your current configuration.

PRESS SELECT TO CONTINUE

備考

» プリセットを保存した後に、再度ウィザード機能でセットアップを開始すると、[Start from default settings?](初期状態の設定から開始しますか?) というメッセージが表示されます。[YES] にすると、初期状態にリセットされた上でウィザードが実行されます。[NO] にすると、以前設定した値を引き継いでウィザードが実行されます。

注意!

» ウィザード機能を使用してプリセットの更新をする場合、構成モードで手で設定した音響調整機能がデフォルト値にリセットされますのでご注意ください。設定を部分的に変更したい場合は、現状の設定をプリセットとして保存した上で、新規プリセットを作成し、設定をコピー/ペーストするとデータの消失を防止できます。

4. [What Would you like to setup?]

「セットアップしたいシステム構成は？」

ホイールつまみで選択・決定してください。[STAGE MONITORS]

を選択・決定した場合は、手順 7 に進みます。

※ここでは例として [PA SYSTEM] を選択します。

What would you like to setup?

PA SYSTEM
STAGE MONITORS
PA SYSTEM + STAGE MONITORS



備考

» [PA SYSTEM + STAGE MONITORS] は、[PA SYSTEM] と [STAGE MONITORS] の設定を続けて行います。画面表示は多少異なりますが、基本は同じですので説明を省略します。

5. [Select PA system input format:]

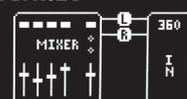
「システムの入力構成を選択してください」

ホイールつまみで選択・決定してください。

※ここでは例として [STEREO] を選択します。

Select PA system input format:

MONO
STEREO
LCR



6. [Select left PA input:]

「L 側の入力フォーマットを選択してください」

ホイールつまみで選択・決定してください。

手順 5 で [STEREO] または [LCR] を選択した場合は、次の画面で同様に C(center)、R (right) もそれぞれ選択・決定してください。

Select left PA input:

ANALOG1
ANALOG2
ANALOG3
AES1
AES2

備考

» 入力フォーマットをアナログ入力からデジタル入力に変更すると、[XLR Input Format will be changed from Analog 1 to AES 1&2 upon completion of Setup Wizard.](ウィザードが完了した時点で XLR 入力のフォーマットが Analog 1 から AES 1&2 へ変更されます) と確認メッセージが表示されます。逆の場合 (デジタル入力→アナログ入力) やチャンネルが異なる場合も、対応するメッセージが表示されます。ホイールつまみを押して次に進みます。

7. [Select brand of stereo main speakers:]

「メインスピーカーのブランド名を選択してください」

ホイールつまみで選択・決定してください。リストに使用するスピーカーのブランド名がない場合は [Not listed??] を選択し、ホイールつまみを押し、手順 9 へ進みます。

システム構成を [STAGE MONITOR] にした場合は、[monitor 1] (1 台目のモニタースピーカー) について設定してください。



備考

- » [Not listed??] を選択した場合は、システム構成に応じて、汎用的なクロスオーバーを自動で設定します。
- » システム構成を [STAGE MONITOR] にした場合は、次の画面で [Add another monitor?] (モニタースピーカーを追加しますか?) が表示されます。スピーカーを追加する場合は [YES] を選択・決定し、手順 7~9 を繰り返してモニタースピーカーを決定してください。追加が終わったら [NO] を選択・決定し、手順 14 に進みます。

8. [Select model of stereo main speakers:]

「メインスピーカーのモデル名を選択してください」

ホイールつまみで選択・決定してください。リストに使用するスピーカーのモデル名がない場合は [Not listed??] を選択し、ホイールつまみを押ししてください。

システム構成を [STAGE MONITOR] にした場合は、[monitor 1] (1 台目のモニタースピーカー) について設定してください。



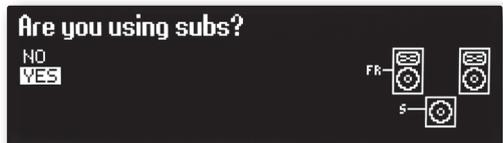
備考

- » 選択したスピーカーがパッシブ/バイアンプ駆動の切り替えが可能な場合は、[Select main speaker mode:] (メインスピーカーのモードを選択してください) と表示されます。内蔵されたパッシブ・クロスオーバーを使用する場合は [FULL RANGE]、使用しない場合は、[BI-AMPED] をホイールつまみで選択・決定してください。スピーカーがパッシブ/バイアンプ駆動の切り替えができない場合は、この項目はスキップされます。
- » [Not listed??] を選択した場合は、システム構成に応じて、汎用的なクロスオーバーを自動で設定します。

9. [Are you using subs?]

「サブウーファーを使用しますか？」

ホイールつまみで選択・決定してください。[NO] の場合は、手順 14 へ進みます。



10. [Are your subs aux fed?]

「サブウーファーは、AUX 系統による入力ですか？」

ホイールつまみで選択・決定してください。[YES] の場合は、次の画面でサブウーファーの入力フォーマットを選択してください。



11. [Select sub output format:]

「サブウーファアの出力構成を選択してください」

ホイールつまみで選択・決定してください。

※ここでは例として [MONO × 2] を選択します。



12. 手順 7、手順 8 と同様に、使用するサブウーファアのブランド名、モデル名をホイールつまみで選択・決定してください。リストに使用するサブウーファアがない場合は [Not listed??] を選択し、ホイールつまみを押しください。



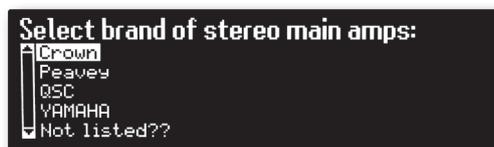
13. [Select brand of stereo main amps:]

「メインスピーカー用パワーアンプのブランド名を選択してください」

ホイールつまみで選択・決定してください。リストに使用するパワーアンプのブランド名がない場合は [Not listed??] を選択し、ホイールつまみを押して、手順 16 に進みます。

メインスピーカーをバイアンプ駆動にしている場合は、高域用 (high amps)、低域用 (low amps) について手順 13 ~ 15 を繰り返して設定してください。

システム構成を [STAGE MONITOR] にした場合は、[monitor 1] (1 台目のモニタースピーカー) について設定してください。



備考

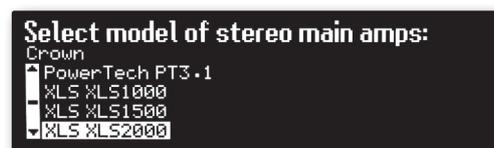
- » パワーアンプのブランド「AMCRON」は、本機では「Crown」と表示されます。
- » メインスピーカー、サブウーファア、またはモニタースピーカーにパワードスピーカーを選択した場合は、内蔵のパワーアンプを使用するため、手順 13 または手順 14 はスキップされます。

14. [Select model of stereo main amps:]

「メインスピーカー用パワーアンプのモデル名を選択してください」

ホイールつまみで選択・決定してください。リストに使用するスピーカーのモデル名がない場合は [Not listed??] を選択し、ホイールつまみを押しください。

システム構成を [STAGE MONITOR] にした場合は、[monitor 1] (1 台目のモニタースピーカー) について設定してください。モニタースピーカーの台数分、手順 14 ~ 15 を繰り返してください。



備考

- » 入力感度を切り替え可能なパワーアンプを選択した場合は、「Select main amp sensitivity:」と表示されるので、パワーアンプで設定した感度と同じ値を選択し、ホイールつまみを押しください。
- » [Not listed??] を選択した場合、リミッターは設定されません。必要に応じて手動で設定してください。

15. [Match your main amp levels to this:]

「メインスピーカー用パワーアンプのレベルアッテネーターを表示と合致するように調整してください」

パワーアンプの推奨ゲイン設定を表示しています。調整が完了した後、ホイールつまみを押してください。

システム構成を [STAGE MONITOR] にした場合は、[monitor 1] (1 台目のモニタースピーカー) について設定してください。



備考

» パワーアンプに Crown(AMCRON) の I-Tech Series を選択した場合は、この項目はスキップされ、以下の順番で指示があります。

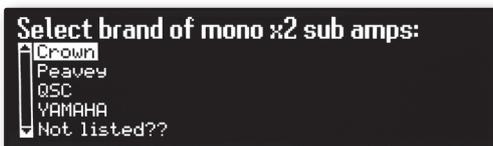
- ① [I-Tech amplifier setup] と表示されるので、パワーアンプのアッテネーターを絞り切り、全ての信号処理機能を OFF またはバイパスに設定し、ホイールつまみを押してください。
- ② [Select main max analog input] と表示されるので、パワーアンプの [Maximum Analog Input] で設定した最大入力レベルと同じ値を選択し、ホイールつまみを押してください。
- ③ 「Match main sensitivity to this:」 と表示されるので、本機のディスプレイに反転表示された値にパワーアンプの感度を設定し、ホイールつまみを押してください。

» システム構成を [STAGE MONITOR] にし、パワードスピーカーを選択した場合は、[Set powered monitor 1 to accept line level input and match the level to this:] (1 台目のパワードモニターをライン入力設定にし、レベルを表示と合致するように調整してください) とメッセージが表示されます。調整が完了した後、ホイールつまみを押してください。

16. システム構成を [STAGE MONITOR] にした場合は、ここで手順 6 と同様に、それぞれのモニタースピーカーの入力フォーマットを選択・決定してください。

その後、それぞれのスピーカーに対し、AFS (ハウリング・サプレッサー) を適用するかを選択・決定してください。全てを決定したら手順 20 に進みます。

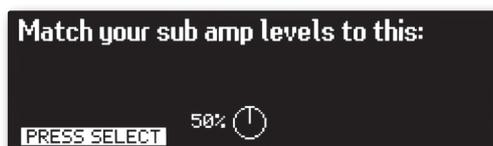
17. 手順 13、手順 14 を参考にして、同様に使用するサブウーファー用パワーアンプのブランド名、モデル名をホイールつまみで選択・決定してください。リストに使用するサブウーファー用パワーアンプがない場合は [Not listed??] を選択し、ホイールつまみを押し手順 19 に進みます。



18. [Match your sub amp levels to this:]

「サブウーファー用パワーアンプのレベルアッテネーターを表示と合致するように調整してください」

パワーアンプの推奨ゲイン設定を表示しています。調整が完了した後、ホイールつまみを押してください。



備考

» パワーアンプに Crown(AMCRON) の I-Tech Series を選択した場合は、別のメッセージが表示されます。手順 15 の「備考」を参考に、セットアップを進めてください。

19. [Are your sub amps bridged?]

「サブウーファー用パワーアンプはブリッジ接続ですか？」

ホイールつまみで選択・決定してください。

※システム構成で [PA SYSTEM + MONITOR] を選択した場合は、続いてモニタースピーカーの設定を行います。手順 7 から順に設定を行ってください。



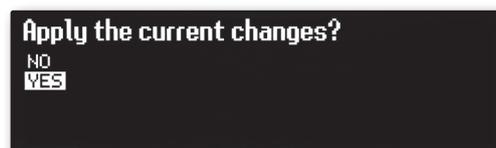
20. [Apply the current changes?]

「設定を変更しますか？」

これまでの設定をキャンセルする場合は [NO]、適用する場合は [YES] を選択し、ホイールつまみを押してください。

次の画面で [Make the following connections] (この接続を行ってください) というメッセージと共に、システムの接続概要図が表示されます。

もう一度ホイールつまみを押すとシステム設定ウィザードの最初の画面に戻ります。



以上で、システム設定ウィザードは終了です。

オートEQ / レベルアシスト・ウィザード (Run AutoEQ/Level Assist Wizard)

備考

- ※全てのウィザードを連続して実行したい場合は、[Run All Wizards] を行ってください。
- ※ウィザードの実行前に Wizard Options の設定状況を確認することをお勧めします。設定の詳細については、18 ページの「ウィザード機能の設定」を参照してください。

1. WIZARD ボタンを押してください。ウィザードモードに切り替わります。



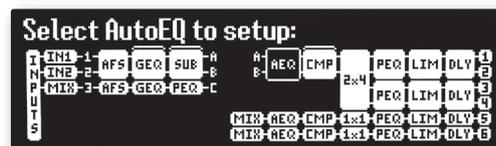
2. [RUN AutoEQ / Level Assist Wizard] を選択し、ホイールつまみを押してください。



3. [Select AutoEQ to setup:]

「設定するオートEQモジュールを選択してください」

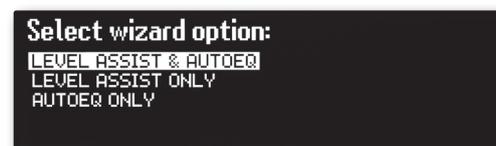
ホイールつまみを回して構成マップ上のカーソルを移動し、設定する [AEQ] のアイコンを選択・決定してください。



4. [Select wizard options:]

「(実行する) ウィザードを選択してください」

レベルアシストとオートEQを設定する場合は、[LEVEL ASSIST & AUTOEQ] を選択してください。[LEVEL ASSIST ONLY] を選択すると、レベルアシストのみ、[AUTOEQ ONLY] を選択すると、オートEQのみを設定します。

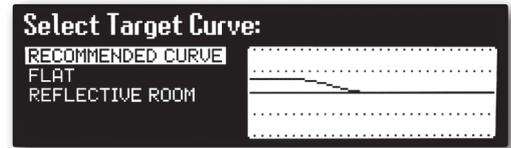


※選択したオートEQモジュールの挿入位置によっては、この項目はスキップされます。

5. [Select Target Curve:]

「ターゲットカーブを選択してください」

- RECOMMENDED CURVE (推奨されたカーブ)
- FLAT (フラット)
- REFLECTIVE ROOM (反射音の多い部屋である)



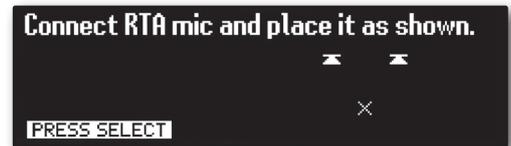
オート EQ による補正方法を設定します。音響システムの周波数特性がフラットの場合、低域が少し弱く聞こえる場合があります。RECOMMENDED CURVE に設定した場合は、自動的に低域を増強してこれを補正します。FLAT に設定した場合は、全周波数帯域をフラットに補正します。REFLECTIVE ROOM に設定した場合は、低域の増強に加え、反射音の対策として高域を抑制する補正を行います。

ホイールつまみを押して選択・決定してください。

6. [Connect RTA mic and place it as shown.]

「RTA マイクロホン接続し、表示の通りに設置してください」

最初にレベルアシスト・ウィザードを実行します。測定用マイクロホンを前面パネルの RTA MIC INPUT 端子に接続してマイクスタンドに立て、表示の通り、L、(C)、R のスピーカーと正三角形を形成するよう、×印の位置に設置してください。ホイールつまみを押すとメインスピーカーの L 側から音圧レベルの測定を開始し、スピーカーのレベルおよび L(C)R のバランスを分析します。キャンセルする場合は、ホイールつまみを押してください。



備考

測定環境に問題がある場合は、以下のようなエラーメッセージが表示されます。「測定音以外の周囲の音が大い」「スピーカーや測定用マイクロホンが正しく接続されていない」「ミキサーやパワーアンプのレベルが低い」等が原因として考えられます。適切な改善を行った後、[TRY AGAIN] を選択し、ホイールつまみを押してください。再度測定を開始します。

Environment too noisy.	周囲がうるさい
Signal level at RTA Mic too low or too much background noise.	測定用マイクロホンの信号レベルが低すぎる、またはバックグラウンドノイズが多すぎる
Test signal too quiet, or too much background noise.	測定に必要な信号レベルが低すぎる、またはバックグラウンドノイズが多すぎる
Test signal not detected	測定に必要な信号が検知できない
Test signal level too low.	測定に必要な信号のレベルが低すぎる
RTA Mic Input clip detected.	測定用マイクロホンの入力でクリップが検知された
Background noise level has increased too much.	バックグラウンドノイズのレベルが高くなりすぎている
No RTA mic detected. Check connection.	測定用マイクロホンを検知できない。接続を確認してください。

7. [Adjust your left Main amp level. Turn up 4dB.]

「L 側のメインスピーカー用パワーアンプのレベル調整をしてください。4dB 上げてください。」



調整の必要がある場合は、図のようなパワーアンプの推奨ゲイン設定が表示されるので、パワーアンプのアッテネーターを調整してください。調整後、[TEST AGAIN] を選択し、ホイールつまみを押すと、再度測定を開始します。再測定をスキップし、次のスピーカーの測定に進む場合は [SKIP] を選択し、ホイールつまみを押してください。

8. L → C → R、そしてサブウーファーの L → C → R の順に音圧レベルの測定と分析が進みます。調整が必要な場合は手順 7 のように表示されるので、パワーアンプのアッテネーターを調整してください。

9. [Select number of RTA mic measurements:]

「RTA マイクで測定する位置の数を選択してください」

オートEQ を実行します。測定用マイクロホンで測定する位置の数を [2(GOOD)], [3(BETTER)], [4(BEST)] から選択し、ホイールつまみを押してください。測定箇所が多くなるほど、分析結果の精度が高まります。



10. [Start measurement for mic position 1.]

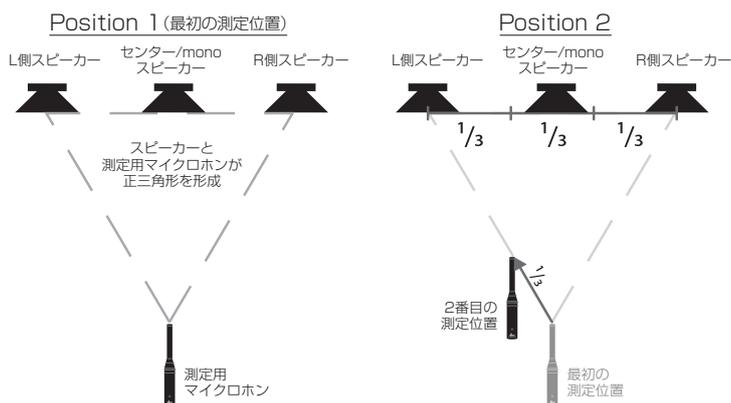
「Position 1 のマイクロホンの測定をします」

表示の通り、測定用マイクロホンを L(C)R のスピーカーと正三角形を形成するよう、×印の位置に設置してください。ホイールつまみを押すとリアルタイムアナライザーで音場の測定を開始します。キャンセルする場合は、ホイールつまみを押してください。測定後、次の測定箇所の指示が表示されます。順次、測定用マイクロホンを移動させて測定を行ってください。各測定箇所の詳細は以下の通りです。手順 9 で [2(GOOD)] を選択した場合は position 1 と 2 のみ、[3(BETTER)] を選択した場合は position 1 と 2 と 3、[4(BEST)] を選択した場合は全ての position で測定します。



position 1

イラストの「position 1」の通り、測定用マイクロホンを L(C)R のスピーカーと正三角形を形成するように設置してください。

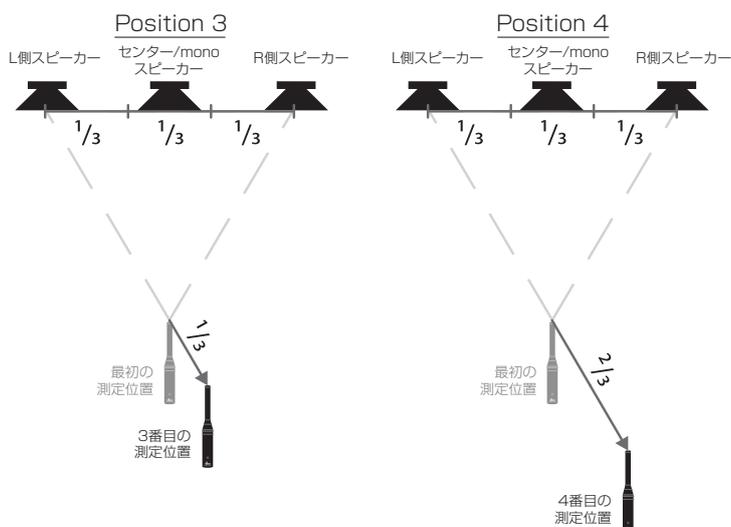


position 2

イラストの「position 2」の通り、測定用マイクロホンを L 側のスピーカーに近付けます。測定用マイクロホンと L 側のスピーカーとの距離が、position 1 と比べて 1/3 程度短くなるようにしてください。

position 3

イラストの「position 3」の通り、測定用マイクロホンを L 側のスピーカーから遠ざけます。測定用マイクロホンと L 側のスピーカーとの距離が、position 1 と比べて 1/3 程度長くなるようにしてください。



position 4

イラストの「position 4」の通り、測定用マイクロホンを L 側のスピーカーからさらに遠ざけます。測定用マイクロホンと L 側のスピーカーとの距離が、position 1 と比べて 2/3 程度長くなるようにしてください。

備考

» 測定環境に問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。24 ページの「備考」を参考にメッセージを確認してください。適切な改善を行った後、[TRY AGAIN] を選択し、ホイールつまみを押してください。再度測定を開始します。測定用信号のレベルが低すぎる場合は、[TRY AGAIN WITH INCREASED TEST SIGNAL LEVEL] (測定用信号のレベルを上げて、もう一度行う) を選択してください。

5. [Perform sound check and setup rough mix for all mics. Check VENU360 in/out mutes.]

「サウンドチェックとラフミックスが完了していることを確認してください。本機の入力、出力のミュートも確認してください。」

確認が終わったら、ホイールつまみを押してください。

Perform sound check and setup rough mix for all mics.
Check VENU360 in/out mutes. ->

PRESS SELECT TO CONTINUE

6. [Bypass any active noise gates]

「ノイズゲートを使用している場合は、バイパスしてください。」

操作が完了したら、ホイールつまみを押してください。

Bypass any active noise gates.

PRESS SELECT TO CONTINUE

7. [Fully lower mixer outputs]

「ミキサーの出力フェーダーを一番下まで下げてください。」

操作が完了したら、ホイールつまみを押してください。

Fully lower mixer outputs.



PRESS SELECT

8. [Use default number of 6 FIXED filters?]

「固定フィルターは、デフォルトの“6個”を使用します。」

固定フィルターの数を設定します。デフォルト設定の6個から変更しない場合は [YES] を選択し、ホイールつまみを押してください。

変更する場合は [NO] を選択し、次の画面で固定フィルターの数を設定してください。

Use default number of 6 FIXED filters?

NO
YES

備考

※固定フィルターとは、AFS ウィザードで使用される固定のノッチフィルターで、会場のハウリングポイントに自動的に挿入されます。

9. [Select AFS filter type (width):]

「ノッチフィルターの種類(幅)を選択してください」

用途に応じて以下から選択し、ホイールつまみを押してください。

- Speech : 76Hz 未満は帯域幅を 11Hz に固定し、76Hz 以上は Q を 7 に固定します。ハウリングへの反応速度を最優先にして動作するため、スピーチやアナウンスのみの用途に最適です。
- Music/Speech : 260Hz 未満は帯域幅を 9Hz に固定し、260Hz 以上は Q を 29 に固定します。最も汎用性の高い設定で、ライブとスピーチ/アナウンスを両方行う用途に適しています。
- Music : 927Hz 未満は帯域幅を 8Hz に固定し、927Hz 以上は Q を 116 に固定します。音質を最優先にして動作するため、ライブのみの用途に最適です。

Select AFS filter type (width):

Speech
Music/Speech
Music



備考

※Q はフィルターの鋭さを表しており、値が大きいほど鋭くなります。

10. [Slowly raise mixer outputs.]

「ミキサーのフェーダーをゆっくりと上げてください」

マイクロホンの周辺が静かな状態でゆっくりとミキサーのフェーダーを上げてください。ハウリングが発生し、固定フィルターが自動的に挿入されていきます。全ての固定フィルターが挿入されると、自動的に設定を完了します。フェーダーを十分に上げてても全ての固定フィルターが挿入されない場合は、固定フィルターの数を減らしてください。



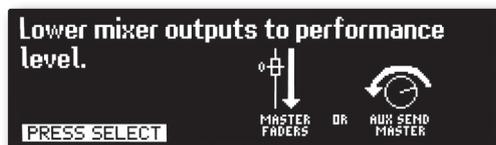
備考

» 全ての固定フィルターが挿入されないまま一定時間が経過すると、「Are you done setting FIXED filters?」(固定フィルターの設定は終わりましたか?) と表示されます。固定フィルターの挿入を最初からやり直す場合は [NO]、固定フィルターの挿入を完了して次の手順に進む場合は [YES] を選択し、ホイールつまみを押してください。

11. [Lower mixer outputs to performance level.]

「ミキサーのフェーダーをラフミックス時の位置に戻してください。」

操作が完了したら、ホイールつまみを押してください。



12. [AFS LIVE filters now active.]

「AFS ライブフィルターが現在有効です。」

固定フィルターの設定が終了し、全てのノッチフィルターの設定状況が表示されます。F は固定フィルター、L はライブフィルターを表します。ホイールつまみを回すと、挿入された固定フィルターの設定周波数、Q、および減衰量を確認できます。ホイールつまみを押してください。



13. [Setup another AFS?]

「他の AFS モジュールも設定しますか?」

設定する場合は [YES] を選択・決定し、手順 1 に戻ります。設定を完了する場合は [NO] を選択・決定してください。AFS ウィザードの最初の画面に戻ります。



以上で、AFS ウィザードは終了です。

▶ マスタークロックソースとサンプリングレート変換

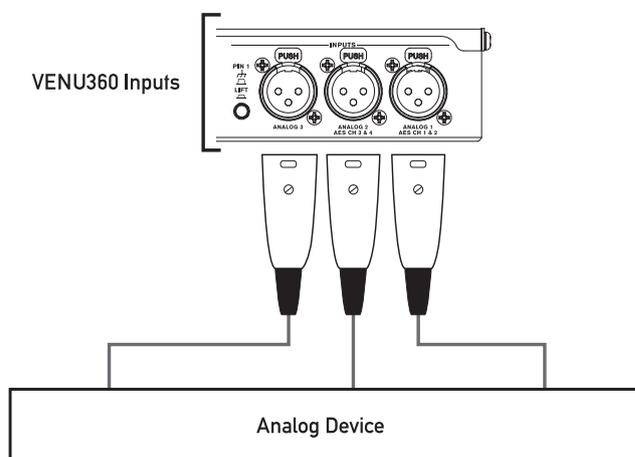
本機は、内部クロック動作、またはデジタル入力をマスタークロックとする外部クロック動作を選択できます。また、サンプリングレート変換（Sample Rate Conversion、SRC）機能を内蔵し、デジタル入力にそれぞれ独自のクロックを使用する2台のデジタル機器を接続したり、48kHzまたは96kHz以外のサンプリングレートで動作するデジタル機器を接続したりすることが可能です。

システム設定ウィザードの過程で、入力フォーマットとマスタークロックソースが設定されますが、システム構成によっては手動設定が必要になる場合もあります。

以下に接続機器に応じた本機の設定方法を示します。ユーティリティ機能の詳細は、13ページの「ユーティリティ機能（Utility Menu）」を参照してください。

アナログ入力のみ

アナログ入力のみの場合は、[Clock Source] を [Internal 48kHz] または [Internal 96kHz] に設定します。この構成では、XLR1、2の入力フォーマットを [Analog] に設定してください。



1. Utility ボタンを押して、ユーティリティ機能画面を表示します。

2. 下記の通り、それぞれの項目を設定してください。

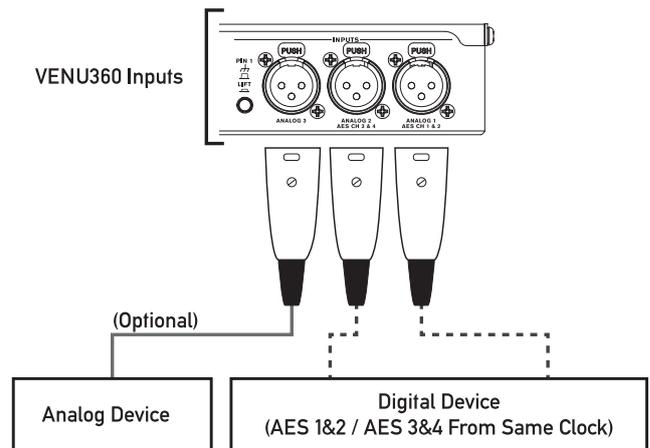
ユーティリティ機能の設定	
Clock Source	Internal 48kHz または Internal 96kHz
XLR Input Format	XLR 1 Format : Analog 1
	AES 1&2 Sample Rate Conversion : N/A (なし) ※
	XLR 2 Format : Analog 2
	AES 1&2 Sample Rate Conversion : N/A (なし) ※

※ Locked - AES clock source not selected (AES が選択されていないので、ロックされています) と表示され、変更ができないよう表示がロックされます。

1 台の外部機器のデジタル入力 (48kHz または 96kHz のサンプリングレートで動作)

48kHz または 96kHz で動作する 1 台のデジタル機器 (デジタルミキサーなど) を両方のデジタル入力端子に接続する場合は、いずれかのデジタル入力をクロックソースに設定し、SRC は両方 OFF にします。この構成では、XLR1、2 の入力フォーマットを [AES] に設定してください。

この設定は、例えば外部ワードクロックの利用により同期されたクロックを使用する 2 台のデジタル機器を接続する場合にも使用できます。



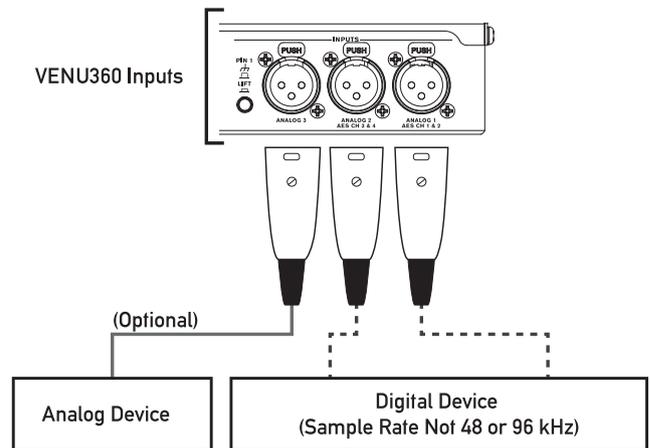
1. Utility ボタンを押して、ユーティリティ機能画面を表示します。

2. 下記の通り、それぞれの項目を設定してください。

ユーティリティ機能の設定	
Clock Source	AES 1&2 または AES 3&4
XLR Input Format	XLR 1 Format : AES 1&2
	AES 1&2 Sample Rate Conversion : OFF
	XLR 2 Format : AES 3&4
	AES 3&4 Sample Rate Conversion : OFF

1 台の外部機器のデジタル入力 (48kHz または 96kHz 以外のサンプリングレートで動作)

48kHz または 96kHz 以外のサンプリングレートで動作するデジタル機器を両方のデジタル入力端子に接続する場合は、SRC を使用します。この場合、本機の [Clock Source] を [Internal 48kHz] または [Internal 96kHz] に設定してください。SRC が自動的に ON になり、サンプリングレートを内部クロックに合わせて変換します。



1. Utility ボタンを押して、ユーティリティ機能画面を表示します。

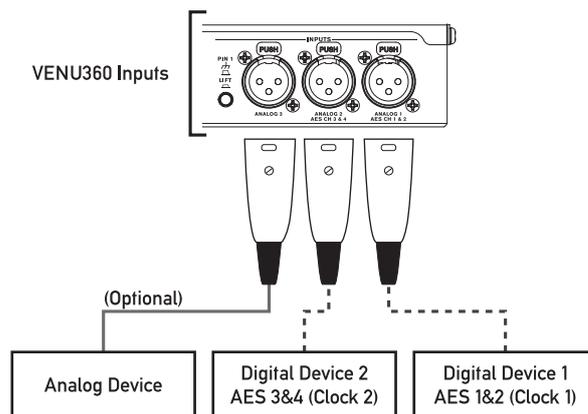
2. 下記の通り、それぞれの項目を設定してください。

ユーティリティ機能の設定	
Clock Source	Internal 48kHz または Internal 96kHz
XLR Input Format	XLR 1 Format : AES 1&2
	AES 1&2 Sample Rate Conversion : ON
	XLR 2 Format : AES 3&4
	AES 3&4 Sample Rate Conversion : ON

2 台の外部機器のデジタル入力（クロックが独立）

クロックが独立した 2 台のデジタル機器をそれぞれ XLR 1 と XLR 2 に接続する場合は、一方をクロックソースに設定し、もう一方は SRC を ON にします。入力フォーマットはどちらも [AES] に設定してください。

- Utility ボタンを押して、ユーティリティ機能画面を表示します。
- 下記の通り、それぞれの項目を設定してください。



ユーティリティ機能の設定	
Clock Source	AES 1&2
XLR Input Format	XLR 1 Format : AES 1&2
	AES 1&2 Sample Rate Conversion : OFF
	XLR 2 Format : AES 3&4
	AES 3&4 Sample Rate Conversion : ON

備考

- » クロックソースを [Internal 48kHz] または [Internal 96kHz] に設定すると、SRC が自動的に ON になり、設定の変更ができないようにそのままロックされます。これにより、誤ったクロックソースの設定を防止できます。
- » 本機がサポートするサンプリングレートは 48kHz または 96kHz です。これ以外のサンプリングレートの外部機器を接続する場合は SRC を使用してください。SRC を ON に設定すると、32kHz ~ 192kHz のサンプリングレートをサポートします。

■ 構成モードの使用

入力信号のルーティング / ミキシング設定と、音響調整機能の変更について説明します。

備考

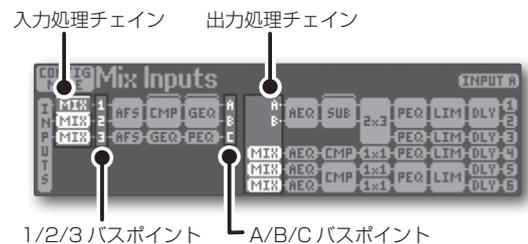
» 本機は、構成モード等で設定を変更した後に新しい設定を呼び出す際、安全のために全ての出力を自動的にミュートします。システムを検聴する準備ができたなら、出力のミュートを解除してください。

▶ ルーティング / ミキシング設定

本機の入力信号は、入力処理チェーンまたは出力処理チェーンにルーティングできます。

入力処理チェーンでは、直接入力（Analog1、Analog2、AES1 など）からの信号をルーティング / ミキシング可能で、出力処理チェーンでは直接入力に加え、1/2/3 バスポイントまたは A/B/C バスポイント、1/2/3 バスポイントと A/B/C バスポイントのサミング可能な組み合わせからの信号をルーティング / ミキシング可能です。

1/2/3 バスポイントは入力処理前の信号を出力にルーティングし、A/B/C バスポイントは入力処理後の信号を出力にルーティングします。51 ページの「DSP ブロックダイアグラム」も参照してください。

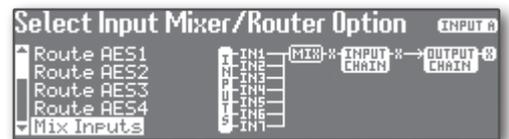
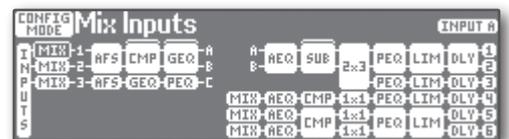


備考

» サミングすると、信号レベルがわずかに高くなります。その場合、EDIT ボタンを押して、サミング部分を選択し、マスターゲインコントロールを調整して補正してください。

ルーティング / ミキシングの設定手順

1. CONFIG ボタンを押します。
2. ホイールつまみと UP/DOWN ボタンで構成マップを操作し、入力処理チェーンまたは出力処理チェーンの、設定を行うポイントのアイコンを選択・決定します。
3. Mixer/Router Option メニューが表示されます。ホイールつまみを回して目的の項目を選択し、ホイールつまみを押しして選択を確定します。
4. さらに設定する場合は、2～4 を繰り返します。
5. 完了したら、CONFIG ボタンを 2 回押しして変更を適用します。



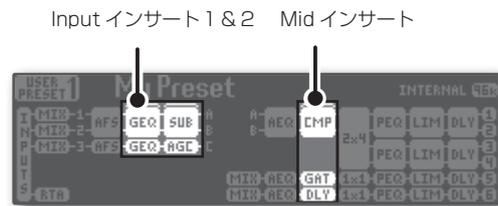
備考

» 同じチェーンの中であれば、COPY/PASTE ボタンで設定内容をコピー / ペーストすることができます。

▶ 音響調整機能のインサート

入力処理チェーンに Input インサートのスロットが2つ、出力処理チェーンに Mid インサートのスロットを1つ備えています。インサートスロットは、構成マップで右図のように表示されます。

また、音響調整機能は用途に応じてリンク／リンク解除ができます。



Input インサートスロットには、以下の音響調整機能を2つまで設定できます。

- 自動ゲイン制御 [AGC]
- バックラインディレイ [DLY]
- コンプレッサー [CMP]
- グラフィック EQ [GEQ]
- ノイズゲート [GAT]
- パラメトリック EQ (12バンド、ナローノッチ機能搭載) [PEQ]
- サブハーモニック・シンセサイザー [SUB]

※入力インサートスロットでは、同じタイプの音響調整機能を連続してインサートすることはできません。

Mid インサートスロットには、以下の音響調整機能を1つ設定できます。

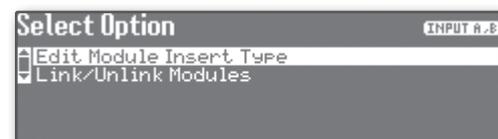
- 自動ゲイン制御 [AGC]
- コンプレッサー [CMP]
- フィルディレイ [DLY]
- ノイズゲート [GAT]
- サブハーモニック・シンセサイザー [SUB]

音響調整機能のインサート手順

1. CONFIG ボタンを押します。
2. ホイールつまみと UP/DOWN ボタンで構成マップを操作し、設定を行いたいスロットを選択・決定します。
3. [Select Option] メニューが表示されたら、ホイールつまみで「Edit Module Insert Type」を選択・決定します。
4. ホイールつまみでインサートしたい音響調整機能を選択・決定します。
5. さらに設定する場合は、ステップ2～4を繰り返します。
6. 完了したら、CONFIG ボタンを2回押しして変更を適用します。

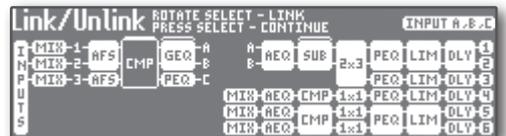
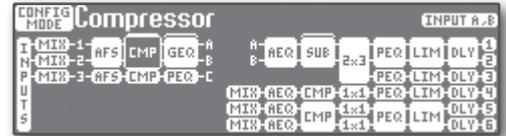
備考

» COPY/PASTE ボタンで設定内容をコピー／ペーストすることができます。構成マップ画面でモジュールを選択し、COPY ボタンを押します。次にコピー先のインサートスロットを選択し、PASTE ボタンを押します。



音響調整機能のリンク／リンク解除

1. CONFIG ボタンを押します。
2. ホイールつまみと UP/DOWN ボタンで構成マップを操作し、リンク／リンク解除する音響調整機能を選択・決定します。
3. [Select Option]メニューが表示されたら、ホイールつまみで「Link/Unlink Modules」を選択します。
4. ホイールつまみを右に回すと、下の音響調整機能とリンクされます。ホイールつまみを左に回すと、選択した音響調整機能のリンクが解除されます。
5. ホイールつまみを押して変更を確定します。
6. さらに設定する場合は、ステップ 2～5 を繰り返します。
7. 完了したら、CONFIG ボタンを 2 回押して変更を適用します。



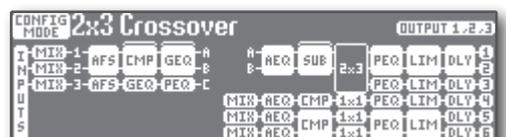
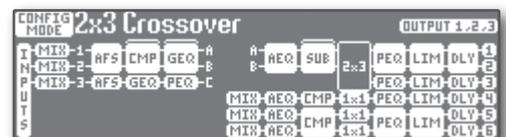
備考

- » 音響調整機能のリンクは下向きのみ可能です。リンクする一番上の音響調整機能を選択してください。
- » オートEQ、ルーター、ミキサー、クロスオーバー、および出力機能はリンクできません。また、リンク可能なのは、同じタイプの音響調整機能のみです。

▶ クロスオーバーの変更

合計 52 種類のクロスオーバータイプが用意されており、入力構成(モノ、ステレオ、LCR)、出力構成(フルレンジ、マルチウェイ、マルチモノ、サブウーファーなど)の組み合わせが利用できます。

1. CONFIG ボタンを押します。
2. ホイールつまみと UP/DOWN ボタンで構成マップを操作し、クロスオーバーのモジュールを選択・決定します。
3. [Select Crossover Type]が表示されたら、ホイールつまみでクロスオーバーのタイプを選択・決定します。
4. さらに設定する場合は、ステップ 2～3 を繰り返します。
5. 完了したら、CONFIG ボタンを 2 回押して変更を適用します。



備考

- » クロスオーバーを変更すると、出力名が自動設定されます。この出力名は編集できます。編集方法は 16 ページの「文字、数値の変更」を参照してください。

■ プリセット

▶ プリセットについて

本機は、ウィザード機能で作成／編集したセットアップ・データをプリセットとして内部に保存できます。プリセットには、ユーザープリセットと固定プリセットの2種類があります。各プリセットの違いは以下の通りです。工場出荷時にプリセットに保存されているセットアップ・データについては、38ページの「プリセットリスト」を参照してください。

ユーザープリセット

ユーザーが作成したセットアップ・データを内部に保存するためのプリセットで、プリセット番号1～75番に該当します。工場出荷時は1～25番までは固定プリセットと同じセットアップ・データが保存されています。新規作成／編集したセットアップ・データを保存する場合は、任意のユーザープリセット番号に上書きしてください。

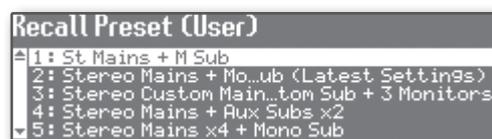
固定プリセット

一般的な構成のセットアップ・データが保存されているプリセットで、プリセット番号76～100番に該当します。固定プリセットには、上書き保存はできません。

▶ プリセットの呼び出し

任意のプリセットを呼び出す方法は以下の通りです。

1. RECALL ボタンを押してください。プリセット呼び出しモードに切り替わります。
2. ホイールつまみを回して、呼び出すプリセットを選択します。
3. RECALL ボタン、またはホイールつまみを押してください。選択したプリセットが呼び出されます。



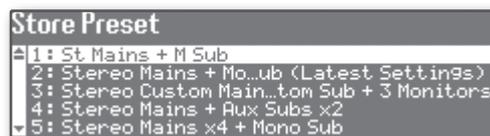
▶ プリセットの保存

現在のセットアップ・データを任意のユーザープリセットに保存する方法は以下の通りです。

1. STORE ボタンを押してください。プリセット保存モードに切り替わります。
2. 現在呼び出されているプリセット名がディスプレイに表示されます。プリセット名を変更する場合は、ホイールつまみを使用して希望の名称を作成してください。文字の変更方法の詳細については、16ページの「文字、数値の変更」を参照してください。



- 希望のプリセット名が表示されていることを確認し、STORE ボタンを押してください。
- ホイールつまみを回して、保存先のプリセット番号を選択します。



注意!

» セットアップ・データがすでに保存されているプリセット番号を選択すると、データが上書きされます。

- STORE ボタンまたはホイールつまみを押し、プリセットを保存します。

備考

- » ウィザード機能で作成／編集したセットアップ・データは、全てプリセットに保存されます。ただし、ユーティリティー機能およびリアルタイムアナライザーの設定状況はプリセットに保存されません。
- » 任意のプリセットを呼び出し、その設定を一度でも変更すると STORE ボタンが点灯します。変更したセットアップ・データの内容を保持したい場合は、プリセットとして保存してください。保存せずに、別のプリセットを呼び出した場合は、変更内容が失われます。

▶ プリセットのコピー

プリセットを任意のユーザープリセットにコピーする方法は以下の通りです。

- 「プリセットの呼び出し」の手順に従い、コピーするプリセットを呼び出してください。
- 「プリセットの保存」の手順 1～3 に従ってください。
- ホイールつまみを回して、コピー先のプリセット番号を選択します。
- STORE ボタンまたはホイールつまみを押し、プリセットをコピーします。

▶ プリセットの削除

任意のユーザープリセットを削除する方法は以下の通りです。

- RECALL ボタンを押してプリセット呼び出しモードにします。
- [Empty] 以外のプリセットを選択している状態で、STORE ボタンを 2 秒以上長押ししてください。[Delete Preset] 画面に変わります。
- 削除するプリセットをホイールつまみで選択・決定します。
- [Delete the preset?](プリセットを削除しますか?) とメッセージが表示されます。削除する場合は [YES]、キャンセルする場合は [NO] を選択します。削除したプリセット番号は [Empty] になります。

▶ プリセットの管理

プリセットとして保存したセットアップ・データは、専用アプリケーション「VENU360 Control App」のファイルシステムを通じて、バックアップを作成できます。ただし、このバックアップはアプリケーションに依存したファイルシステムを利用するため、アプリケーションを削除すると、バックアップも削除されます。バックアップの作成方法とバックアップから本機にプリセットを戻す方法は以下の通りです。

【注意！】

※ アプリケーションのアップデートにより、ファイルシステムがリセットされ、バックアップが消失する場合があります。

バックアップの作成方法

1. 39 ページの「VENU360 Control App」のダウンロードとインストール ～ 「タブレット端末や PC との接続」までの手順に従い、タブレット端末や PC で「VENU360 Control App」を起動し、本機を操作できる状態にしてください。
2. 「VENU360 Control App」のプリセット管理ボタンをタッチ/クリックしてください。
 
3. 画面左側には本機に保存されているプリセットのリスト、画面右側には「VENU360 Control App」のファイルシステム内に保存されているバックアップのリストが表示されます。左側のプリセットリストからバックアップを作成したいプリセットをタッチ/クリックした後、[>] の表示をタッチ/クリックしてください。
4. プリセットが右側のファイルシステムに移動すれば完了です。

【備考】

- ※ ファイルシステムでは、プリセット名は重複できません。バックアップを作成しようとしているプリセットと同じ名前のプリセットが、既にファイルシステムに保存されている場合は「File exists, rename?」と表示されるのでプリセット名を変更してください。
- ※ 本機に保存されているプリセットを変更しても、ファイルシステム内のプリセットには反映されません。再度プリセットの移動をしてください。

ファイルシステムから本機にプリセットを戻す方法

1. 「バックアップの作成方法」の手順 1 ～ 2 に従ってください。
2. 右側のファイルシステムのバックアップリストから本機に戻したいプリセットをタッチ/クリックしてください。
3. プリセットを戻す場所を左側のプリセットリストからタッチ/クリックした後、[<] の表示をタッチ/クリックしてください。
4. 「Do you want to replace preset '●' with '～」 ('●' に '～' を上書きしますか) と表示されるので、●のプリセット番号に上書き保存する場合は [OK]、別の場所を選ぶ場合は [No] をタッチ/クリックしてください。
5. ファイルシステム内のプリセットが左側のプリセットリストに移動すれば完了です。

▶ プリセットリスト

プリセット番号		プリセット名	表示
ユーザー	固定		
1	76	Stereo Full Range Mains	
2	77	Stereo Mains + Mono Sub	
3	78	Stereo Mains + Stereo Subs	
4	79	Stereo Mains + Aux Subs x2	
5	80	Stereo Mains x4 + Mono Sub	
6	81	Stereo Mains x4 + Stereo Subs	
7	82	Stereo 2Way Mains	
8	83	Stereo 2Way Mains + Mono Sub	
9	84	Stereo 2Way Mains + Stereo Subs	
10	85	Stereo 2Way Mains + Aux Subs x2	
11	86	Stereo 3Way Mains	
12	87	Mono Full Range Main	
13	88	Mono Mains x2 + Mono Sub	
14	89	Mono Mains x2 + Mono Subs x2	
15	90	Mono Mains x2 + Aux Subs x2	

プリセット番号		プリセット名	表示
ユーザー	固定		
16	91	Mono 2Way Mains x2	
17	92	Mono 2Way Mains x2 + Mono Sub	
18	93	Mono 2Way Mains x2 + Mono Subs x2	
19	94	Mono 2Way Mains x2 + Aux Subs x2	
20	95	Mono 3Way Mains x2	
21	96	LCR Full Range Mains	
22	97	LCR Mains + LCR Subs	
23	98	LCR 2Way Mains	
24	99	Full Range Stage Monitors x6	
25	100	2Way Stage Monitors x3	

※工場出荷時はプリセット番号 26 ~ 75 は [Empty] (空欄) に設定されています。

■ 専用アプリケーションによるコントロール

▶ 専用アプリケーション「VENU360 Control App」について

「VENU360 Control App」は本機をリモートコントロールするための専用アプリケーションです。タブレット端末やPCをWi-Fiで接続すれば、会場を歩き回り、実際の音を聴きながらサウンドが調整できます。また、PCを有線で接続することも可能で、より大きな画面でセットアップが行えます。

「VENU360 Control App」は、綿密に設計された鮮やかなグラフィックにより優れた視認性を獲得しており、直感的な操作が可能です。iOS、Android OS、Mac OS、Windows OSに対応しています。「VENU360 Control App」をワイヤレスで使用するためにはWi-Fi対応のタブレット端末またはPCおよび無線ルーターが別途必要です。

「VENU360 Control App」のタブレット端末 動作環境

iPad

- OS : iOS 7.0以降
- 対応機種 : iPad 2以降

Android

- OS : Android OS 4.0.3以降
- 対応機種 : 7インチ以上のタブレット

▶ 「VENU360 Control App」のダウンロードとインストール

タブレット端末を使用する場合

iOSのタブレット端末を使用する場合はApp Store、Android OSのタブレット端末を使用する場合はGoogle playにアクセスし、「DriveRack Venu360 Control」と検索してください。「DriveRack Venu360 Control」が検索結果に表示されたら、ダウンロードおよびインストールします。

Windows PCを使用する場合

1. dbxのホームページ (<http://www.dbxpro.com>) 内にある、DriveRack VENU360の製品ページにアクセスし、「Downloads」の項目からWindows OS対応の「VENU360 Control App v ● (Windows)」を任意の場所にダウンロードします(●はアプリケーションのバージョン番号です)。
2. 現在実行しているアプリケーションを全て終了します。
3. ダウンロードした「VENU360.exe」をダブルクリックして実行します。
4. インストーラーが起動し「Welcome to the VENU360～」と表示されるので、[Next >] ボタンをクリックします。

5. 「License Agreement」と表示されるので、記載されている使用承諾契約に関する内容を確認してください。問題がなければ [I accept the agreement] を選択後、[Next >] ボタンをクリックします。
6. 「Select Destination Location」と表示されるので、「VENU360 Control App」をインストールする場所を指定します。通常は変更する必要はありません。変更しない場合は [Next >] ボタンをクリックしてください。変更する場合は [Browse...] ボタンをクリックし、インストール先を選択してください。
7. 「Select Start Menu Folder」と表示されるので、「VENU360 Control App」のショートカットを作成する場所を指定します。通常は変更する必要はありません。変更せずにスタートメニューのフォルダに作成する場合は [Next >] ボタンをクリックします。変更する場合は [Browse...] ボタンをクリックし、作成先を選択してください。
8. 「Select Additional Tasks」と表示されるので、デスクトップにアイコンを作成する場合は「Create a desktop icon」の項目にチェックを入れて [Next >] ボタンをクリックします。アイコンを作成しない場合はチェックを外して [Next >] ボタンをクリックしてください。
9. 「Ready to Install」と表示されるので、[Install] ボタンをクリックし、インストールを開始します。
10. 「Completing the VENU360 ~」と表示されるので、インストール終了後「VENU360 Control App」を起動する場合は「Launch VENU360」の項目にチェックを入れて [Finish] ボタンをクリックします。起動せずに終了する場合はチェックを外して [Finish] ボタンをクリックしてください。

Mac OS を使用する場合

1. dbx のホームページ (<http://www.dbxpro.com>) 内にある、DriveRack VENU360 の製品ページにアクセスし、「Downloads」の項目から Mac OS 対応の「VENU360 Control App v ● (Mac OS X)」をダウンロードします (● はアプリケーションのバージョン番号です)。
2. ダウンロードした「VENU360 Mac v ● .dmg」をダブルクリックして実行します (● はアプリケーションのバージョン番号です)。
3. 「VENU360 Control.app」を Applications フォルダにドラッグすれば「VENU360 Control App」がインストールされます。

▶ タブレット端末や PC との接続

本機と PC を 1 : 1 接続で操作する場合

1. CAT5e または CAT6 のクロスケーブルで本機の ETHERNET 端子と PC の LAN ポートを接続します。

注意!

» 必ずクロスケーブルを使用してください。

2. PC の IP アドレスの設定を、AUTO IP アドレス (IP アドレスを自動的に取得) に設定してください。

3. PC で「VENU360 Control App」を起動します。

4. 本機の電源を ON にします。

5. 下記の手順に従い本機のネットワーク設定を行ってください。

- ① Utility ボタンを押し、ホイールつまみで [Network] を選択・決定してください。
- ② [DHCP Enable] を [OFF] に選択・決定してください。
- ③ [Static IP Address] を、[169.254.2.2] にします。数値の変更方法は、16 ページの「文字、数値の変更」を参照してください。数値の編集が終わったら、Utility ボタンを押して保存してください。
- ④ [Subnet Mask] を、[255.255.0.0] にします。数値の編集が終わったら、Utility ボタンを押して保存してください。
- ⑤ BACK ボタンを数回押すと、ホーム画面に戻ります。

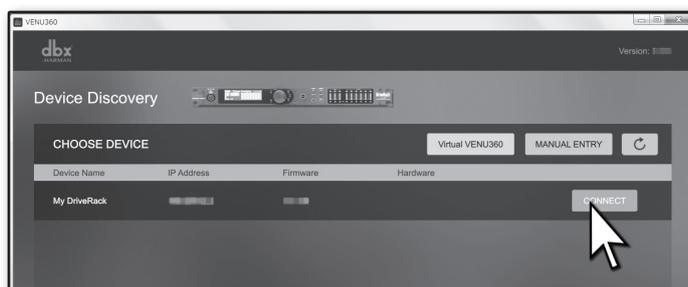
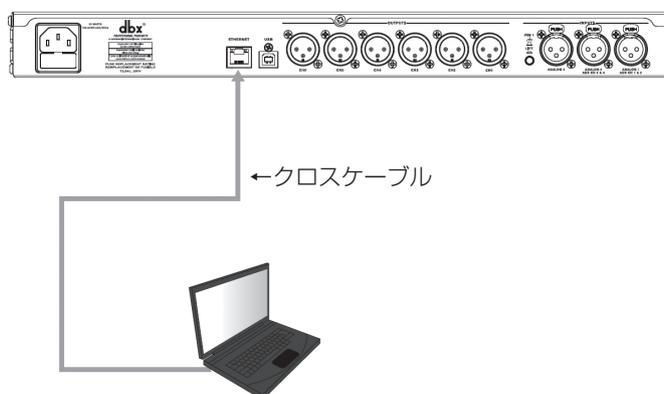
備考

» 固定 IP アドレス (ご自身で PC や機器に直接割り当てる IP アドレス) を使用する場合は、IP アドレスの衝突や設定値によりつながらなくなりますので、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

» 固定 IP アドレス使用時は、手順 5 と同様に本機のネットワーク設定画面を開き、[DHCP Enable] の設定を [OFF] にしてください。また、[Static IP Address]、[Subnet Mask]、[Gateway] を必要に応じて設定してください。

6. 本機がネットワーク上に検出されると、初期画面に本機の IP アドレスとファームウェアのバージョンが表示されます。[CONNECT] をタッチ / クリックして接続を確立すると、VENU360 Control App で本機のコントロールが可能になります。

直接 PC と接続する場合



本機をワイヤレスで操作、または、ルーターを介して有線で操作する場合

1. CAT5e または CAT6 のストレートケーブル[※]で、本機の ETHERNET 端子に接続します。

※ AUTO-MDI/MDIX 機能を持つルーターを使用する場合は、クロスケーブルでも構いません。

2. ケーブルのもう一方のプラグを DHCP サーバ機能のあるルーターの、LAN ポートに接続します[※]。

※ WAN ポートには接続しないでください。

3. ネットワーク機器の電源を ON にします。
4. タブレット端末や PC で「VENU360 Control App」を起動します。

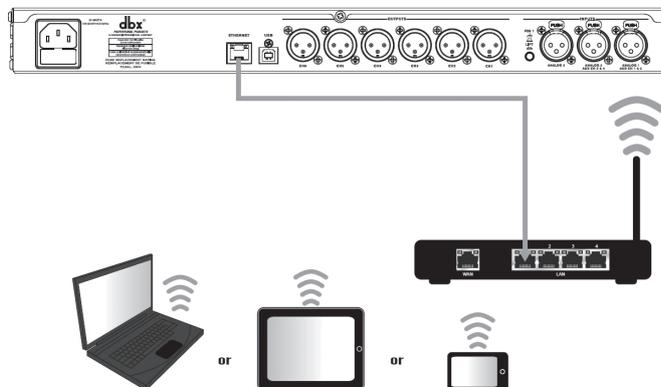
5. ワイヤレスで接続する場合は、タブレット端末や PC の Wi-Fi 設定を ON に切り替え、無線ルーターと接続します。

6. 本機の電源を ON にします。起動時に DHCP サーバより自動的に IP アドレスが割り振られます。

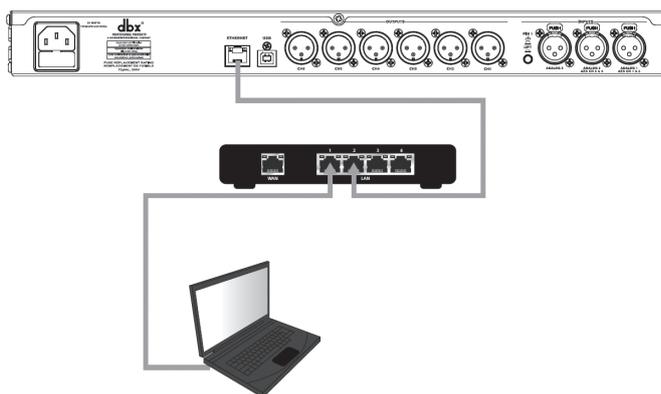
本機に自動で IP アドレスを割り振るには、本機の [DHCP Enable] 設定が [ON] である必要があります。Utility ボタンを押し、ホイールつまみで [Network] を選択・決定し、[DHCP ENABLE] を [ON] にしてください。

7. 本機がネットワーク上に検出されると、初期画面に本機の IP アドレスとファームウェアのバージョンが表示されます。[CONNECT] をタッチ/クリックして接続を確立すると、VENU360 Control App で本機のコントロールが可能になります。

ワイヤレスで接続する場合



ルーターを使用する場合



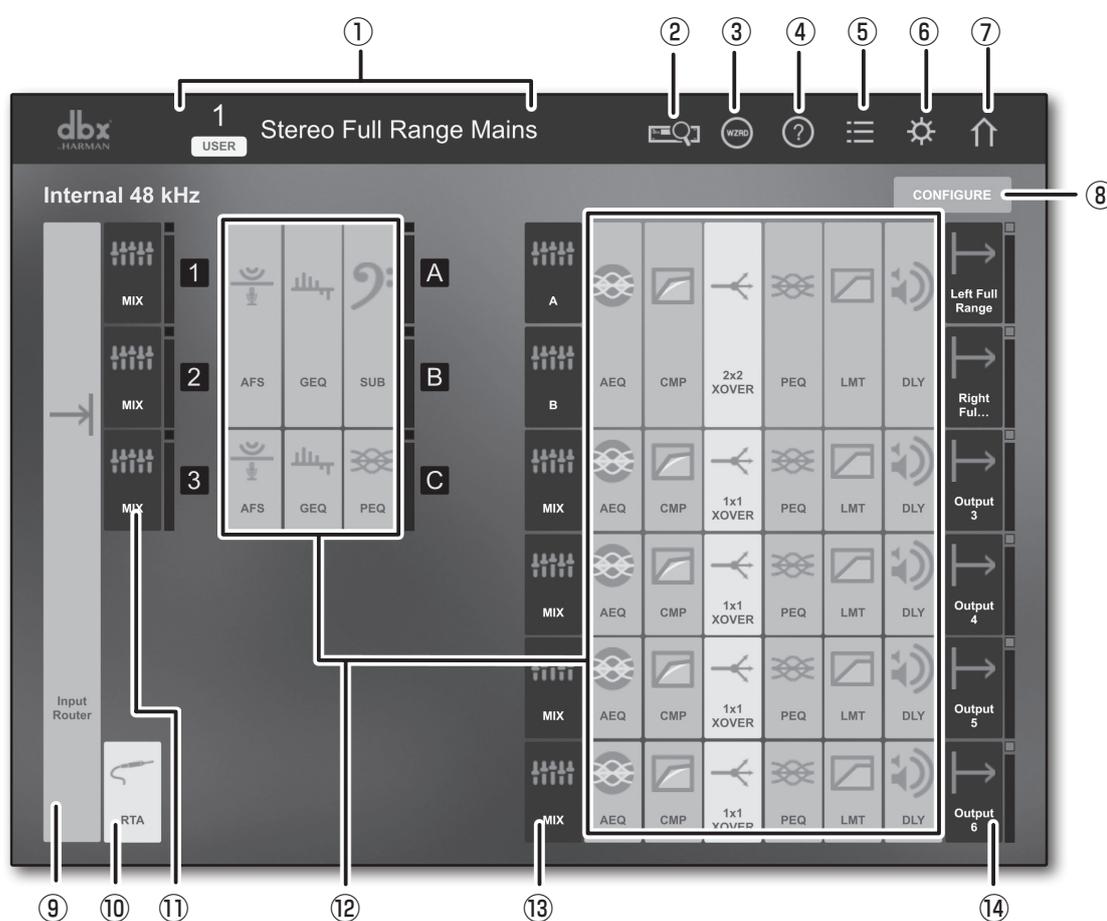
▶ 専用アプリケーションの各部の名称と機能

アプリケーションを起動し、ネットワーク上に本機が検出されると、初期画面に [CONNECT] が表示されます。タッチ／クリックしてコントロールを開始します。

備考

▶ [CONNECT] を押した時、または Virtual VENU360 の起動時に、本機の仕様タイプについての選択画面が表示されます。通常タイプの場合は [Standard]、Dante タイプは [Dante]、BLU link タイプは [Blu link] を選択してください。

「VENU360 Control App」の操作画面の各部の名称と機能は以下の通りです。



① プリセット情報

現在再現されているプリセット番号と名前が表示されます。

② デバイス検索ボタン

ネットワーク上をスキャンし、接続されている機器を検出します。

③ ウィザードボタン

ウィザード機能の呼び出しを行います。ウィザード機能の詳細については 17 ページの「ウィザード機能について」を参照してください。

④ ヘルプボタン

現在表示されている画面の説明を英語で表示します。

⑤ プリセット管理ボタン

プリセットの呼び出し、保存、名前の変更などを行います。ファイルシステムのバックアップリストを表示します。

⑥ システム管理ボタン

システム情報の表示、アプリケーションやファームウェアの更新、Virtual VENU360 で作成したプリセットと本機の同期を行います。

⑦ ホームボタン

基本の操作画面に戻ります。

⑧ CONFIGURE ボタン

構成モードを起動し、現在のプリセットで設定しているセットアップ・データの編集を実行できます。構成モードの設定については 32 ページの「構成モードの使用」を参照してください。

備考

› 構成モードをキャンセルするには [ABORT] を押してください。設定の途中で [ABORT] を押すと、[Do you want to discard all configuration changes?] (構成の変更内容をすべて破棄しますか?) のメッセージがでます。破棄する場合は [YES] を押してください。

› 設定を適用するには、[APPLY] を押してください。[Do you want to apply all configuration changes?] (すべての構成の変更を適用しますか?) のメッセージが出ますので、適用する場合は [YES]、キャンセルする場合は [NO] を押してください。

⑨ Input モジュールの表示

IN 1 ~ 7 に割り当てられている入力ソースを表示します。

⑩ RTA ボタン

リアルタイムアナライザー機能を起動します。測定用マイクロホンの運用状況のモニタリングや、シグナルジェネレーターの ON/OFF、ルーティング設定などを行います。

⑪ ルーティング / ミキシングの表示 (入力処理チェーン)

ルーティング / ミキシングのルートを表示します。ミキシングが設定されたスロットをタッチ / クリックすると、各チャンネルのゲインを調整するフェーダーと、ミュートボタンを表示します。また、マスター出力の調整・ミュートの実行も可能です。

B

⑫ 音響調整機能

音響調整機能を表示します。各機能をタッチ / クリックすると、詳細なパラメーター調整ができます。

⑬ ルーティング / ミキシングの表示 (出力処理チェーン)

ルーティング / ミキシングのルートを表示します。ミキシングが設定されたスロットをタッチ / クリックすると、各チャンネルのゲインを調整するフェーダーと、ミュートボタンを表示します。また、マスター出力の調整・ミュートの実行も可能です。

⑭ 出力レベルメーター

出力レベルを表示します。また、ミュートの実行も可能です。

▶ Virtual VENU360

本機をネットワークで接続せずにセットアップ・データの編集を行うことができる、「Virtual VENU360」を装備しています。

この機能を使用するには、アプリケーションの初期画面で [Virtual VENU360] ボタンをタッチ / クリックして起動してください。

Virtual VENU360 で編集したセットアップ・データはプリセットとして保存してください。プリセットはアプリケーションのファイルシステムに保存されます。



ファイルシステムに保存したプリセットを本機と同期する方法

1. 39 ページの「VENU360 Control App」のダウンロードとインストール] ~ 「タブレット端末や PC との接続」までの手順に従い、タブレット端末や PC で「VENU360 Control App」を起動し、本機を操作できる状態にしてください。

2. 「VENU360 Control App」のシステム管理ボタンをタッチ / クリックしてください。



3. ファイルシステムから本機へデータを移動する場合、[Virtual VENU360 to My DriveRack] を、本機からファイルシステムへデータを移動する場合は [My DriveRack to Virtual VENU360] をタッチ / クリックしてください。



※ "My DriveRack" の部分は、設定した任意の Device Name が表示されます。

注意!

» この操作を行うと、すべてのプリセットとユーティリティー機能の設定項目が上書きされます。ご注意ください。

▶ アプリケーションのアップデート

1. 39 ページの「[VENU360 Control App] のダウンロードとインストール」～「タブレット端末や PC との接続」までの手順に従い、タブレット端末や PC で[VENU360 Control App]を起動し、本機を操作できる状態にしてください。
2. [VENU360 Control App] のシステム管理ボタンをタッチ/クリックしてください。
3. [Check for Updates] (アップデートをチェックする) の表示をタッチ/クリックしてください。最新のバージョンが利用可能な場合は、自動的に更新を開始します。アップデートの必要がない場合は、[Your application is up to date.] と表示されます。

備考

- » アップデートのチェックは、インターネットに接続していないと行えません。
- » アプリケーションをアップデートすると、チューニングリストもアップデートされます。

■ 前面パネルのロック

前面パネルをロックして、誤操作による設定の変更を防止します。ロックを設定した時は、ボタンを押して操作しようとする、画面に設定したロックの種類が表示されます。

ロックの設定 / 解除方法

1. RTA ボタンを押しながら電源を入れます。画面に [System Lockout] メニューが表示されるまで、そのまま押し続けます。
2. System Lockout メニューが表示されたら、ホイールつまみで設定したい項目を選択・決定します。
 - Unlocked: デフォルトの設定です。前面パネルからすべての機能にアクセスできます。一度ロックを設定し、解除するときはこの項目を選択してください。
 - Locked: 前面パネルの操作がすべてロックされます。
 - Locked with AFS Clear: 前面パネルの操作がロックされますが、AFS フィルターの Clear 機能のみ有効です。このロックを設定中に、AFS フィルターの Clear を実行するには、EDIT ボタンを押し、マップ上の該当する AFS モジュールをホイールつまみで選択・決定した後、もう一度ホイールつまみを押ししてください。
 - Locked with AFS Clear and Mutes: 上記のロック状態に加え、出力ミュートボタンも操作が有効になります。
3. [Press RTA to confirm selection. Press any key to exit.] (選択を確定するため、RTA ボタンを押ししてください。ロックがかかります。キャンセルするには RTA ボタン以外のボタンを押ししてください。)

■ 工場出荷時の状態へのリセット

本機に動作上の不具合が発生した場合は、「ソフトリセット」または「ハードリセット」を実行してください。

▶ ソフトリセット

ソフトリセットはユーザープリセットのみを残し、その他の設定データを工場出荷時の状態にリセットします。実行したら元に戻せませんのでご注意ください。

ソフトリセットの実行方法

1. 本機の電源を OFF します。
2. UTILITY ボタンを押しながら、電源を ON にします。画面に [SOFT RESET Release UTILITY button] のメッセージが表示されたら、UTILITY ボタンを離します。
3. 確認メッセージが表示されますので、実行してよければ WIZARD ボタンを押してください。キャンセルする場合は、UTILITY ボタンを押してください。

▶ ハードリセット

ハードリセットはプリセットを含む全ての設定データを工場出荷時の状態にリセットします。実行したら元に戻せませんのでご注意ください。

ハードリセットの実行方法

1. 本機の電源を OFF します。
2. STORE ボタンを押しながら、電源を ON にします。画面に [FACTORY RESET Release STORE button] のメッセージが表示されたら、STORE ボタンを離します。
3. 確認メッセージが表示されますので、実行してよければ WIZARD ボタンを押してください。キャンセルする場合は、STORE ボタンを押してください。

■ ファームウェアの更新

本機のファームウェアは専用アプリケーション「VENU360 Control App」を使用してタブレット端末や PC 経由で、または専用のアップデーター「VENU360 Firmware Updater」を使用して PC から USB 端子経由で更新できます。2016 年 3 月現在で「VENU360 Firmware Updater」は、Windows OS のみに対応しています。更新の方法は以下の通りです。

「VENU360 Control App」を使用したファームウェアの更新方法

1. 39 ページの「VENU360 Control App」のダウンロードとインストール] ～「タブレット端末や PC との接続」までの手順に従い、タブレット端末や PC で「VENU360 Control App」を起動し、本機を操作できる状態にしてください。
2. 「VENU360 Control App」のシステム管理ボタンをタッチ/クリックしてください。
 
3. [Check for Updates] の表示をタッチ/クリックしてください。最新のファームウェアが利用可能な場合は、自動的に更新を開始します。
4. ファームウェアの更新が完了すると、本機は自動的に再起動します。

「VENU360 Firmware Updater」を使用したファームウェアの更新方法

1. PC で dbx のホームページ (<http://www.dbxpro.com>) 内にある、DriveRack VENU360 の製品ページにアクセスし、「Downloads」の項目から使用している PC の OS に対応する「VENU360 Firmware Updater v ● (Windows) (無償)」を任意の場所にダウンロードします。
2. AB タイプの USB ケーブルを使用し、本機と PC の USB 端子を接続します。
3. 現在実行しているアプリケーションを全て終了します。
4. ダウンロードした「VenuUpdateInstaller.exe」をダブルクリックして実行します。
5. インストーラーが起動し「Welcome to the DriveRack Firmware～」と表示されるので、[Next >] ボタンをクリックします。
6. 「License Agreement」と表示されるので、記載されている使用承諾契約に関する内容を確認してください。問題がなければ [I accept the agreement] を選択後、[Next >] ボタンをクリックします。
7. 「Select Destination Location」と表示されるので、「DriveRack Firmware Updater」をインストールする場所を指定します。通常は変更する必要はありません。変更しない場合は [Next >] ボタンをクリックしてください。変更する場合は [Browse...] ボタンをクリックし、インストール先を選択してください。

8. 「Select Start Menu Folder」と表示されるので、「DriveRack Firmware Updater」のショートカットを作成する場所を指定します。通常は変更する必要はありません。変更せずにスタートメニューのフォルダに作成する場合は [Next >] ボタンをクリックします。変更する場合は [Browse...] ボタンをクリックし、作成先を選択してください。
9. 「Select Additional Tasks」と表示されるので、デスクトップにアイコンを作成する場合は「Create a desktop icon」の項目にチェックを入れて [Next >] ボタンをクリックします。アイコンを作成しない場合はチェックを外して [Next >] ボタンをクリックしてください。
10. 「Ready to Install」と表示されるので、[Install] ボタンをクリックし、インストールを開始します。

備考

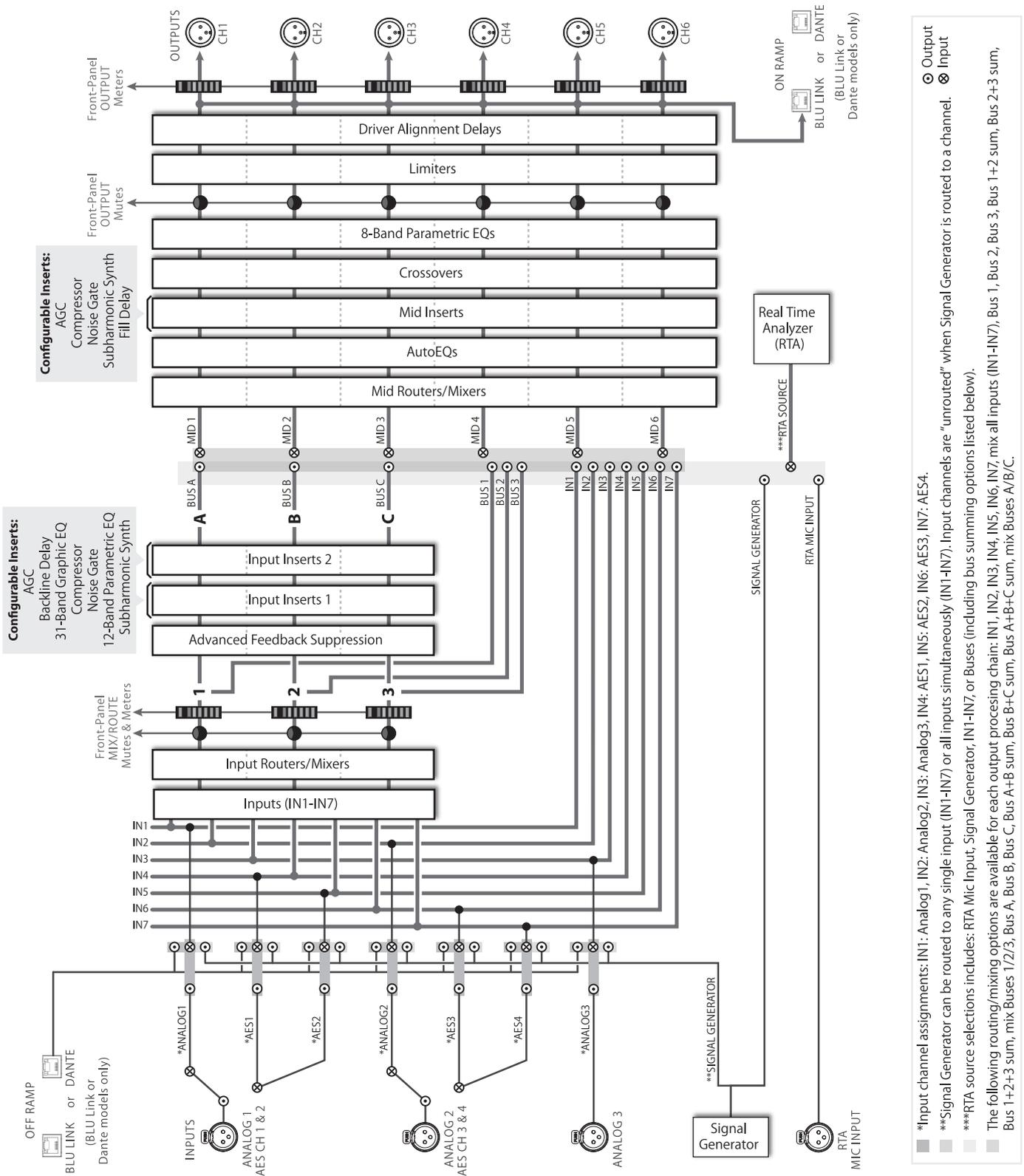
»途中で「デバイス ドライバのインストール ウィザードの開始」と表示されます。ウィザードの表示に従い、USB ドライバをインストールしてください。

11. 「Completing the Driverack～」と表示されるので、インストール終了後「DriveRack Firmware Updater」を起動する場合は「Launch DriveRack Firmware Updater」の項目にチェックを入れて [Finish] ボタンをクリックします。起動せずに終了する場合はチェックを外して [Finish] ボタンをクリックしてください。
12. アップデーターを起動すると「Current firmware version is～」と表示されます。「Current firmware version is～」が現在のバージョン、「New firmware version is～」が利用できる最新のバージョンです。現在のバージョンと最新のバージョンが同じ場合はアップデートの必要はありません。[キャンセル] ボタンをクリックします。最新のバージョンの方が新しい場合は [OK] ボタンをクリックし、ファームウェアの更新を開始してください。
13. ファームウェアの更新後「Firmware update completed」と表示されるので、本機を再起動してください。

備考

»2016年3月現在で「VENU360 Firmware Updater」は、Windows OS のみに対応しています。

DSP ブロックダイアグラム



■仕様

音声入力	端子数	3(端子1と2はアナログとデジタルで共用)※	
	アナログ入力	チャンネル数	3
		端子・形式	XLR、電子バランス
		インピーダンス	30k Ω
	デジタル入力	最大レベル	+28dBu
チャンネル数		4	
RTA マイク入力	端子・形式	XLR、AES/EBU	
	チャンネル数	1	
	ファンタム電源	+48VDC	
音声出力(アナログ出力)	チャンネル数	6	
	端子・形式	XLR、電子バランス	
	インピーダンス	120 Ω	
	最大レベル	+22dBu	
AD-DA 変換	24bit、48/96kHz		
内部処理	32bit フローティングポイント		
周波数特性	20Hz ~ 20kHz(± 0.5dB)		
THD+N	0.0025%(+4dBu、1kHz、0dB ゲイン)		
ダイナミックレンジ	110dB(ウェイトなし)		
電源	AC100V、50/60Hz		
消費電力	18W		
寸法(W × H × D)	483 × 44 × 199mm(除突起部)		
質量	2.6kg		
付属品	ラックマウントねじ(ねじ×4、ワッシャー×4)、電源コード、和文取扱説明書		

※ 3つの音声入力端子のうち、端子1と2はアナログとデジタルで共用です。1つの端子にアナログとデジタルの両方の信号は入力できません。

この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。

HIBINO

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111

札幌オフィス

〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三條1-1-20
TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

大阪ランチ

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891

名古屋オフィス

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡ランチ

〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509